

生涯学習事業推進状況一覧表

1	IV	1	(1)	子ども未来館わくわく体験事業	市	子どもの夢や想像力を育み、健やかな成長に資するとともに、子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流を促進するため、子ども未来館において、公募によるイベントプログラムのほか、子ども未来館まつり(11月)を実施する。	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
1	IV	1	(1)	子ども未来館わくわく体験事業	市	子どもの夢や想像力を育み、健やかな成長に資するとともに、子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流を促進するため、子ども未来館において、公募によるイベントプログラムのほか、子ども未来館まつり(11月)を実施する。	・公募プログラム等…2,327人 ・子ども未来館まつり…573人 ・遊び体験プログラム…1,467人	参加者数	5,550人	4,367人	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月に実施予定だったわくわく体験事業(春)[公募プログラム]及び遊び体験プログラムが中止になったことも影響して、前年度の実績を下回った。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、わくわく体験事業(夏)[公募プログラム]は公募を見送り、その後のものについても状況に応じて実施できるか判断することになる。	子ども未来館
2	IV	1	(1)	エコホテルの利用促進事業	市	南部クリーンセンターで施設見学、親子リサイクル工作会、環境パネルの展示、環境啓発DVDの視聴などを実施する。	・施設見学、体験学習事業の内容を見直し、紙すき以外のリサイクル工作を実施。 ・施設紹介パンフレットの印刷及び配布を行った。 ・夏・冬休み親子工作会を合わせて7回実施。 ・夏休み親子見学会を10回実施。 ・秋に工場見学会を2回実施。	エコホテル利用者数	3,235人	3,027人	B	新型コロナウイルス感染症拡大により施設見学はキャンセルや自粛となった。 今後は見学者や来館者の増加を目指し、自主事業の内容を再検討するとともに、広報やSNSを効果的に活用し、また、学校や各種団体を通じて、市民にごみ処理の現状と課題を学習する機会を提供し、環境意識の向上を図る。	南部クリーンセンター
3	IV	1	(1)	伝統的ものづくり夏休み親子体験教室	市(伝統的ものづくり関係事業者へ体験教室の委託)	親子で本市の伝統的ものづくりへの理解のつくり関心を深め、普及啓発を図ることを目的とし、夏休みの宿題解決や子どもと大人と一緒に地域の伝統的ものづくりにふれあひ、学ぶ体験の場にすると同時に、シビックプライドの醸成につながる場を創出する。	伝統的ものづくり夏休み親子体験教室を、8月5日(月)2コース、8月7日(水)2コース、8月8日(木)2コースを開催。(各コース午前と午後2回)総勢165組の親子が参加。	参加者数	300名	326名	A	総定員200組に対し、199組の応募があった。伝統的ものづくりに対する理解と関心が高く、有意義な普及活動であったと考えられる。申込倍率やアンケート結果を基に講座内容等の改善を図りつつ、継続開催することにより、高松市の伝統的ものづくりへの理解と関心を深め、普及啓発を進める。	産業振興課
4	IV	1	(1)	市場DE自由研究事業	市中央卸売市場運営協議会	市場見学等により、生鮮食料品等に触れる機会の提供、市場の機能や流通システム等について学習する。	実施事業：市場DE自由研究 実施時期：令和元年7月15日(花き部)、7月20日(青果部)、7月22日(花き部)、7月23日(水産物部)、7月25日(青果部)、7月27日(水産物部) 実施場所：高松市中央卸売市場及び公設花き地方卸売市場 参加者数：162名(子供86人、大人76人) ※参加者は総計で90組程度で、応募が多い場合は抽選を行っている。	参加者数	1回当たり親子で15組参加して6回実施した。 実績は、87組(子ども93人、大人88人)となった。 応募者数：154組	1回当たり親子で15組参加して6回実施した。 実績は、76組(子ども86人、大人76人)となった。 応募者数：111組	B	例年通り、青果部・水産物部・花き部において開催した。応募者が多く、イベント終了後のアンケート結果も好評でリピートされる方や、「昨年度に参加して良かった」と友人参加される方もおり、市民に親しまれ、市民に開かれた市場として十分に成果を上げることができた。 今後は、より多くの市民に市場を知っていただけるよう、SNS等を通じて広く周知していく必要がある。	市場管理課
5	IV	1	(1)	埋蔵文化財センター体験学習	市	埋蔵文化財への興味・関心を高めるため、四番丁スクエア内の埋蔵文化財センターで、鋳造・瓦製作体験学習を行う。	鋳造体験 瓦製作体験(応募者なし) 勾玉作り体験 消しゴム製作体験	体験学習参加者数	鋳造体験201人、瓦製作体験41人、勾玉作り体験165人、消しゴム制作者数19人	鋳造体験247人、瓦製作体験0人、勾玉作り体験134人、消しゴム製作体験26人	B	平成30年度実績に比べて19人の減少となったが、依然人気の体験学習である。今年度は、コロナの影響もあり、体験学習数は伸びない可能性が高いが、参加者増加へつながるようHP、SNS等で情報発信を行う。	文化財課
6	IV	1	(1)	親子文化財教室	市(高松市文化財保護協会共催)	市内の小学生と保護者を対象に、年2回、郷土の歴史・文化財を学習し、文化財を身近に学ぶ機会を提供する。	「高松張子人形を作ろう！」7/27 「讃岐の古地図を探検しよう！」11/30	参加人数	55人	92人	A	令和元年度は前年度より広い会場で開催したことで、参加者が前年度を上回った。今年度は実施に当たり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を徹底する必要がある。	文化財課

生涯学習事業推進状況一覧表

7	IV	1	(1)	香南歴史民俗郷土館子ども講座	市	香南歴史民俗郷土館で、夏休みを中心に、郷土の歴史文化を体験する、子ども講座を開催する。	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
7	IV	1	(1)	香南歴史民俗郷土館子ども講座	市	香南歴史民俗郷土館で、夏休みを中心に、郷土の歴史文化を体験する、子ども講座を開催する。	「手習草子(書道教室)」(7/25) 「化石のレプリカをつくろう」(7/28、8/4) 「勾玉をつくろう」(8/8) 「粘土で家紋をつくろう」(8/11)	参加人数	5講座 169人	4講座 195人	A	好評であり、前年度を上回る参加者であった。今後も講座内容を検討し、積極的な広報活動に努めていく。	文化財課 (香南歴史民俗郷土館)
8	IV	1	(1)	夏休み子ども歴史講座	市	小中学生を対象に、夏休みの自由研究として郷土の歴史をテーマに調査研究できるよう、夏休み子ども歴史講座を開催する。	「古地図から、高松市街のいま・むかしを探検しよう！」(8/7)	参加者数	24人	13人	C	参加者が前年度を下回ったが、歴史資料を活用した学習内容であった点が、好評であった。今後も講座内容を検討し、積極的な広報活動に努めていく。	文化財課 (歴史資料館)
9	IV	1	(1)	子どものアトリエ事業	市	展覧会関連事業として、表現の可能性を楽しんでもらう美術講座「子どものアトリエ」を開催する。	展覧会関連事業として、表現の可能性を楽しんでもらう美術講座「子どものアトリエ」を3回、「ふらっとアート」を4回開催した。	子どものアトリエ受講者数	実施回数9回 参加者数1,751人	実施回数7回 参加者数1,346人	C	3月以降、新型コロナウイルス感染症対策のため、子どものアトリエ事業が中止となり、実施回数及び参加者数が前年度よりも減少した。今後感染症その他の理由で同事業が中止になった場合の対策も兼ねて、令和2年5月に子ども向けの作品制作番組などを紹介する動画配信事業を開始した。	美術館美術課
10	IV	1	(1)	子どもわくわく体験支援事業	実施団体(補助)	子どもの創造力や積極性・社会性を育む機会として、市内の自然・歴史・町並み等を活用した体験活動を実施する団体等への助成を行う。	【団体1:子どもの心とからだを考える会】 実施事業:キッズヨガ(ほぐしあそび) 実施時期:令和元年9月29日、12月8日 実施場所:スペースM 参加者数:34名(9/29:17名、12/8:17名) 【団体2:パドッチクラブ】 実施事業:なわ×なわジャンプ! 実施時期:令和2年1月19日 実施場所:香川県青年センター 体育館 参加者数:約270名 【団体3:特定非営利活動法人自然塾びよんびよん】 実施事業:和の食文化を見直そう! 実施時期:令和2年3月1日 実施場所:特定非営利活動法人自然塾びよんびよん 参加者数:27名	実施団体数	5団体	3団体	C	5団体までの申し込みはなかったものの、昨年度から引き続き活動している団体に加えて、新たな団体からの申請もあり、子どもが日常的な環境から離れた体験活動ができる機会を与えることができた。市ホームページ及び広報誌で事業について周知を行ったが、申請が少なかったため、広報活動の工夫や市民活動団体への周知方法を検討していく必要がある。	生涯学習課
11	IV	1	(1)	新春子どもフェスティバル	市	毎年2月第1日曜日に中央公園を中心に、校区対抗「かるたとり・ドッジボール・すもう大会」、自由参加の創作コーナー等多彩なプログラムで開催する。	開催日:令和2年2月2日(日) 場所:高松市立中央公園、市役所、四番丁スクエア、体育館 内容:校区対抗(かるたとり、ドッジボール、すもう)自由参加(創作コーナー、遊び名人コーナー(ほか)) 参加人数:約5,000人	参加人数	約5,000人	約5,000人	A	参加した子ども達は交流を深めることができた。校区対抗の大会への参加校区が減ってきているので、参加校区を増やす取り組みが必要である。	生涯学習課
12	IV	1	(1)	子ども会フットベースボール大会	市	子ども達がスポーツを通して交流し友情を育む機会として、校区子ども会を対象にフットベースボール大会を開催する。	開催日:令和元年9月1日(日) 開催場所:高松市西部運動センター 参加チーム:男子の部12チーム、女子の部8チーム 総勢:240人	参加校区数	男子15校区 女子11校区	男子12校区 女子8校区	C	参加したチームの子ども達は交流を深めることができた。男女とも参加校区が減少しているため、参加校区を増やす取り組みが必要である。	生涯学習課
13	IV	1	(1)	高松・嶺北子ども交歓会	市	市の水源地である早明浦ダム周辺・嶺北地域の子どまと市の子ども達が交流し、水の大切さや有効利用を学び、集団活動を通して友情を育む機会として、交歓会を開催する。	実施時期:令和元年11月2・3日 実施場所:e-とびあ・かがわ、 ユンデンプラザ、 さぬきこどもの国、 ホテルセカンドステージ 参加児童:25人 (嶺北11人、高松14人)	参加者へのアンケートによる満足度	94.7%	95.5%	A	実施場所の変更や新しい体験活動を取り入れる等、行事内容を新しくすることで、参加者の高い満足度に繋がれた。複数の学年の児童が対象のため、参加経験のある児童からも高い満足度を得るため、継続して行事のリニューアルを計画する必要がある。	生涯学習課

生涯学習事業推進状況一覧表

14	IV	1	(1)	子ども農園事業	市(農園主補助)	子どもが生活の中で自然と取組み、土に親しみ植物を育てる喜びと勤労の尊さを体験する機会として、農園主に子ども農園事業として助成し、校区の子ども会等が活用する。	R年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
							①木太校区子ども農園 子ども数:延べ250人 ②高須子ども会子ども農園 子ども数:延べ120人 ③多肥保育所子ども農園 子ども数:延べ860人 ④多肥幼稚園子ども農園 子ども数:延べ600人 ⑤木太南校区子ども農園 子ども数:延べ146人 ⑥花園校区子ども農園 子ども数:延べ500人 ⑦古高松校区子ども農園 子ども数:延べ61人	実施農園数	11か所	7か所	C	子どもの自然体験活動は幾らか図れたが、宅地化や他の公的な補助金を受ける等により利用できる農地が減少したことから、農園数は減少した。農地の減少や地域の担い手不足により新規の農園開設は見込めないため、令和元年度をもって廃止する。	生涯学習課
15	IV	1	(1)	少年団体育成事業	市	校区子ども会育成連絡協議会相互の連携を図り、子ども会活動の充実と子どもの健全育成のため高松市子ども会育成連絡協議会の運営を支援する。	高松市子ども会育成連絡協議会に対し、運営補助金を交付し、就学時健康診断時には、新1年生の保護者に対してちらしを配布した。また、ちらしをリニューアルする際には、本課で新デザインを作成した。	子ども会加入率	68.1%	68.3%	A	子ども会加入率を高められた。高松市子ども会育成連絡協議会の自主運営による子ども会活動の加入促進が図れる支援方法を検討する必要がある。	生涯学習課
16	IV	1	(1)	子ども会育成指導者養成事業	市	各校区の子ども会リーダー・育成者を対象に、子ども会活動に必要な実技指導の講習会を開催する。	リーダー研修会 【第1回目】 実施時期:令和元年7月13日 実施場所:YASU海の駅クラブ 実施内容:シーカヤック等 参加児童:39人 【第2回目】 実施時期:令和2年2月15・16日 実施場所:三瓶青少年交流の家 実施内容:オリエンテーリング等 参加児童:36人 指導者講習会 【第1回目】 実施時期:令和元年5月12日 実施場所:セカンドステージ 実施内容:手打ちうどん作り等 育成者数:62人 【第2回目】 実施時期:令和元年10月26日 実施場所:香南アグリム 実施内容:寄せ植え体験等 育成者数:23人	参加校区数	23校区	27校区	A	参加校区の増加により、より多くの校区リーダーや指導者の育成を図ることができた。児童を対象にしたリーダー研修と同様に、育成者を対象にした指導者講習会についても参加者数を充実させられるよう、行事の在り方や広報を検討する必要がある。	生涯学習課
17	IV	1	(1)	地域活動促進事業	市	地域における子ども活動の充実・拡大のため、子ども会や育成会が実施する研修会や事業に、専門的な指導・助言を行う指導員を派遣する。	派遣時間:20時間 派遣回数:10回	申請件数	6件	10件	A	昨年度を上回る申請があった。今後も引き続き、ちらしの改善や指導者講習会での周知等、啓発内容・回数を充実させる。	生涯学習課

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
18	IV	1	(1)	職場体験学習	小中学校	児童生徒の実態や発達段階に応じて、社会体験・職場体験活動等を通して、望ましい勤労観・職業観を育む。	数日間の職場体験だけでなく、事前・事後指導を含め、年間指導計画に位置付けて活動を行い、生徒の勤労観・職業観を育むことができた。	実施学校数	中学校23校(全23校)100%	中学校23校(全23校)100%	A	全ての中学校で実施できた。生徒の勤労観・職業観を育み、今後のキャリア形成の一助となった。	学校教育課
	I	1	(2)										
19	IV	1	(1)	子ども環境学習交流事業	市	ごみ処理・廃棄物再生利用施設の見学やリサイクル体験を通じた実証的な環境教育のほか、小中学校の環境学習の取組みを発表するなど学習交流の活性化を図る。	事業廃止	参加学校数	小学校24校(全47校)51%	事業廃止	(評価不可)	事業廃止	学校教育課
	I	1	(5)										
20	IV	1	(1)	水資源教育推進事業	市(県補助)	中学生を対象に、香川用水・水資源の重要性についての理解を深めるため、「香川用水の水源巡りの旅」を実施する。	中学生を対象に、香川用水及び水資源に対する認識を深めるため、「香川用水の水源巡りの旅事業」を実施した。	参加校数	中学校23校(全23校)100%	中学校2校(全23校)8.7%	C	市内の中学生が、関連施設等を活用した体験型学習を通して、水環境への関心を高め、節水や水質保全などの意識を高めることができた。	学校教育課
	I	1	(5)										
21	IV	1	(1)	消費生活教育出前講座	市	新しい時代に対応できる自立した消費者の育成・意識高揚のため、金銭教育の一環として、買い物テーマとした小学生高学年対象の出前講座を実施する。	実施回数:9回	実施校数	8校	6校	C	事業実施後の感想文等から理解度や満足度が高かったことが確認されたが、実施校数は、平成30年度より2校減少しており、授業で出前講座を取り上げてもらいやすい内容を見直す必要がある。また、令和2年度から中学生にも対象を広げ、対象に応じた講座の提供ができるよう教材やテーマについて検討する。	くらし安全安心課
	I	2	(10)										
22	IV	1	(1)	年長児童の赤ちゃん・出会い・ふれあい事業	市	次代の親づくりとして、命の大切さや家庭の役割等について理解を深めるため、年長児童が乳幼児や保護者と出会い・ふれあい・交流する場を開設する。	希望した中学校14校の学年全クラスの生徒を対象に、乳幼児や保護者との出会い・ふれあい・交流する場を提供し、体験学習を行った。また、より多くの親子を確保できるよう、ボランティア親子登録を行った。 ○実施中学校 香川第一、高松第一、桜町、玉藻、古高松、紫雲、山田、龍雲、勝賀、木太、星島、牟礼、香東、国分寺	交流、体験学習に参加した中学生のうち子育てに関するボランティア活動を行った者の割合	3.90%	5.10%	A	事業実施後、中学生からは「乳幼児や育児にいい印象を持てるようになり、将来子どもを持ちたい、」という感想が多く寄せられ、参加した乳幼児の保護者からも、地域の中学生たちとの出会いがあつてとてもよかったとの声があつた。	子育て支援課
	I	2	(10)										
23	IV	1	(1)	保育所・幼稚園等への芸術士派遣事業	市(委託)	子どもの感性や創造力を育むため、保育所・幼稚園等に芸術士を派遣し、日々の保育の中で、絵画や造形、音楽など様々な表現活動を行う。	実施施設 保育所・こども園 34施設 幼稚園 9施設	実施経験施設数	79か所	82か所	A	実施している施設についてアンケート調査を行っているが、概ね高評価である。希望している施設すべてに派遣できていないので、今後実施内容等を検討する必要がある。	こども園運営課
	I	2	(10)										
24	IV	1	(1)	こども未来館学習	市	こども未来館学習は、こども未来館の施設を利用した体験的な学習活動を通して、子どもたちの想像力と探究心を育むことで、健やかな成長に資することを目的に実施する。	こども未来館学習…61校実施 (瀬戸・高松広域連携中核都市圏の小学校8校、市内中学校5校含む。)	実施学校数	61校(瀬戸・高松広域連携中核都市圏の小学校8校、市内中学校6校含む。)	61校(瀬戸・高松広域連携中核都市圏の小学校8校、市内中学校5校含む。)	A	前年度と同じ学校数だった。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、市内の学校については、往復の送迎バス等の3密回避に課題が残ることから、こども未来館での実施は中止し、希望する学校には、こども未来館の職員が出向き、各学校において体験できる「出張!こども未来館学習」を実施することになった。瀬戸・高松広域連携中核都市圏の小学校は、交通手段の手配は各校が行うことから、実施の可否は各校の判断とした。今後、来年度実施に向けて、新型コロナウイルス感染症対応のガイドラインに沿って、検討をする必要がある。	こども未来館
	I	2	(10)										

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
25	IV	1	(1)	伝統的ものづくり学校巡回教室	市(伝統的ものづくり関係事業者へ体験教室の委託)	高松市の伝統的ものづくりに関する理解のつくりに関心を深める普及啓発、人づくりの推進を目的とし、地域の伝統的ものづくりにふれあい、学ぶ体験の場であると同時に、未来を担う小中学生のシビックプライドの醸成・職業選択につながるもの、場を創出する。	伝統的ものづくりを行う職人を市内の小中学校へ派遣し、生徒が職人(香川漆器・庵治石・盆裁)の話の聞いたり、実際に作品を見たり簡単な体験をしたりする場をした。 訪問校 3校 生徒数 268名	参加者数	299名	268名	B	当初予定通り3校の小中学校にて学校巡回教室を開催した。地域の伝統的ものづくりにふれあい、学ぶ場を提供するとともに、自分の住んでいる都市に対する「誇り」や「愛着心」の醸成に寄与することができたと考えられる。より多くの小中学生に対して開講できるようにすると共に、開催学校担当教師のアンケートを基に改善を図る。	産業振興課
	I	2	(10)										
26	IV	1	(1)	学校巡回芸術・能楽教室	公益財団法人高松市文化芸術財団(委託)	市内の小中学生を対象に、生の芸術鑑賞・体験の機会として、日舞・洋楽、古典芸能等を巡回公演する。	芸術教室:21校 10,044人 能楽教室:6校 2,466人 全27校 12,510人が鑑賞	鑑賞者数	11,797人	12,510人	A	成果:開催校、鑑賞者数ともに前年度より増加したことに加え、鑑賞した子どもたちや先生の満足度が高く、実施したほとんどの学校が今後も実施したいと回答した。 課題:学校によって児童数が大きく異なるため、実施校の組合せによって同じ学校数でも鑑賞者数が増減する。 また、各小中学校の希望が一部ジャンルに偏る傾向があり、実施に至らないメニューもあるので、実施メニューをより一層、多様化する等、実施希望校の増加を図ることが必要である。	文化芸術振興課
	I	2	(10)										
27	IV	1	(1)	ものづくりふれあい教室	高松市生活文化協会(委託)	市内の小中学生を対象に、手作りでのづくりにチャレンジする機会を提供し、ものの大切さを体験する。	開催校数 18校 教室数 19回	参加者数	760人	693人	B	成果:新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、やむを得ず教室が2回分(2校で143名)中止になったが、開催校数及び教室数は前年度よりも増加した。毎年開催を希望する学校や、学校行事に作品を活用する学校もあり、実施満足度の高い事業といえる。 課題:学校によって開催規模が異なるため(クラブ活動やひと学年での開催等)、教室数が増加しても、参加者数がそれほど振るわない場合がある。 今後は、限られた予算の中でメニュー内容の充実を図り、市内において広く教室を開催し且つ多くの生徒及び児童にもものづくりの機会を提供することが必要である。	文化芸術振興課
	I	2	(10)										
28	IV	1	(1)	サンクリスタル学習	市	主に小学校6年生を対象に、歴史資料館・菊池寛記念館・中央図書館での体験学習「サンクリスタル学習」を実施する。	主に小学校6年生を対象に、歴史資料館・菊池寛記念館・中央図書館での体験学習「サンクリスタル学習」を実施した。 期間:6月～2月 参加校:34校 参加者:2,802人	実施校数	31校	34校	A	前年度を上回る参加があった。教育カリキュラムに組み込まれている学校もあり、今後も事前周知会等で必要性を説明していきたい。	文化財課 (歴史資料館 菊池寛記念館 中央図書館)
	I	2	(10)										
29	IV	1	(1)	美術館学習	市	子どもたちが豊かな感性と未来の鑑賞者としての資質を育むため、美術館での鑑賞・施設学習を実施する。	子どもたちが豊かな感性と未来の鑑賞者としての資質を育むため、美術館での鑑賞・施設学習を実施した。	美術館学習参加者数	参加校 44校 延べ参加者数 1,805人 (引率者含む)	参加校 23校 延べ参加者数 1,129人 (引率者含む)	C	2月末以降、新型コロナ感染症の影響により、参加校数及び参加者数が前年度よりも減少した。今後、同事業の感染症等への対策を講じる必要がある。	美術館美術課
	I	2	(10)										
30	IV	1	(1)	まなびCAN子ども教室	市	生涯学習センターにおいて、ボランティア講師による、小・中学生を対象としたものづくりや環境問題等の講座を開催する。	生涯学習センターにおいて、ボランティア講師による、小・中学生を対象としたものづくりや環境問題等の各種講座を開催した。	参加者数	200人	155人	C	新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となった講座があったことなどから参加者数が減少した。今後も、ボランティア講師を積極的に募集し幅広く各種の講座を開催する必要がある。	生涯学習センター
	VI	1	(2)										

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
	種別	区分	回数					指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
31	IV	2	(1)	放課後子ども教室	市	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の人々の参画のもと、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する。	実施校区数が前年度から1校区増となった。 ・参加児童数 39,808人 ・登録児童数 3,140人	実施校区数	33校区	34校区	A	人材の確保・育成が課題であり、また、未実施校区においては、地域の関係団体を組織する構成員の高齢化等が課題となり、新規開設が困難となっている。今後とも、実践的かつ多様な研修を実施し、人材を育成することにより、事業の充実を図るとともに、未実施校区の関係団体に対し、教室開設の働き掛けを継続し、新規開設校区の増加を図る必要がある。	子育て支援課
32	IV	2	(3)	情報モラル等指導支援事業	市内小中学校	すべての小中学校において教員の情報モラル研修及び学級担任による情報モラル教育を支援する。	全ての小中学校から1名を指定し、香川県警サイバー犯罪対策室や大学教授を講師に、情報モラル教育の授業づくりについて考える「情報モラル教育研修会」を開催した。また、子どものインターネット利用に係るアンケート調査を行い、本市の実態を広く紹介した。	すべての小中学校における教員の情報モラル研修及び学級担任による情報モラル教育を支援する。	100%	100%	A	情報モラル教育研修会は、児童生徒の情報モラルを向上させられるよう、今後も続ける必要がある。また、子どものインターネット利用に係るアンケート調査は、3年に一度行い経年比較を行っているが、少年育成センターと連携し、簡易な調査ができるように研究していきたい。	総合教育センター
	I	1	(4)										
33	V	1	(1)	掃除教育「びかびかデー」	市	幼稚園・小学校で、地域の高齢者等から掃除の仕方を学びながら清掃活動・心の教育を行う。	実施施設：幼稚園23園・こども園6園 ・月1回程度、園児が保護者や地域の老人会等と一緒に園内や地域を清掃した。 小・中学校で、保護者や地域の方等から年間で数回程度、校内や学校周辺の清掃活動を実施した。	(こども園運営課) 実施幼稚園数 (学校教育課) 実施小・中学校数	(こども園運営課) 幼稚園23・こども園6 (学校教育課) 小学校47校・中学校23校	(こども園運営課) 幼稚園23・こども園6 (学校教育課) 小学校47校・中学校23校	A	園児が自分で身の回りをきれいにする心地よさや有用感を味わうとともに、地域の人とのふれあいの場となった。今後も継続していく。児童会、生徒会を中心に清掃活動を行うだけでなく、保護者や地域の方を巻き込んで実施することで、児童生徒の自主性や心の醸成につながった。	こども園運営課 学校教育課
34	V	1	(1)	スマイルあいさつ運動	市	学校・家庭・地域社会が一体となり地域ぐるみで子どもを育てる活動の一環として「スマイルあいさつ運動」を実施する。	学校が家庭や地域社会に働きかけ、学校や地域の実態に応じて定期的に実施。	スマイルあいさつ運動 実施校数	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	A	児童生徒、教職員、保護者、地域住民が連携協力して、あいさつや声をかけ合うことを通じて、「節度ある生活習慣」、「礼儀」、「思いやり」、「感謝」等、豊かな心を育み、学校・家庭・地域社会を活性化していくことにつながった。	学校教育課
35	V	1	(1)	学校評議員制度推進事業	市	地域社会に開かれた学校づくり、家庭・地域との連携協力、特色ある教育活動の展開のため、保護者や地域の意見を幅広く聞く場として、幼稚園・第一高松高等学校には学校評議員会を設置するとともに、小・中学校には、高松型運営協議会を設置する。	高松第一高等学校には学校評議員会を設置。全小・中学校には、高松型運営協議会を設置し、900名を超える協議会委員を委嘱及び任命した。	各幼稚園、小学校、 中学校、高校	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	A	学校運営に関して高松市教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組んだ。	学校教育課
36	V	1	(1)	高松型学校・地域連携システム推進事業	市	児童・生徒の健全な成長や学びを地域全体で支え、地域連携を中心とした教育活動の充実を図るため、高松型学校運営協議会を各小・中学校に設置し、学校やPTA、地域住民、各種団体等との連携を図る。	全小・中学校に、高松型運営協議会を設置し、900名を超える協議会委員を委嘱及び任命した。	小学校・中学校	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	A	学校運営に関して高松市教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組んだ。	学校教育課

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
37	V	1	(1)	中学校運動部活動講師・部活動指導員派遣事業	市	運動部活動のうち、技能の取得過程で危険を伴う競技(柔道・剣道・なぎなた)を対象に、専門性等に優れた外部指導者を派遣する。学校における部活動指導方針に沿い、部活動の指導全般、単独の指導、大会等への引率を行う部活動指導員を派遣する。	外部指導者5名、部活動指導員2名の委嘱・派遣を行った。	派遣希望学校(競技)数	8人	7人	B	講師派遣希望があった全学校に講師を委嘱・派遣し、生徒への技術的な面や精神的な面での指導、並びに部活動担当教員に対して指導方法等の助言ができ、また部活動指導員を派遣することで、顧問として指導、引率等の職務を行うことができた。	保健体育課
	I	2	(4)										
38	V	1	(1)	学校教育活性化推進事業 (R1事業名変更)	学校教育活性化推進事業実施校(補助)	総合的な学習の時間の活性化を図るため、地域社会の人材活用や児童生徒の体験活動の充実を図る。	全小・中学校で地域人材を活用した総合的な学習の時間を実施し、体験活動の充実が図られた。	地域人材の活用	小学校47校(全47校)100% 中学校20校(全23校)87%	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	A	全ての小・中学校で地域人材を活用し、児童生徒の体験活動の充実が図られた。今後、地域人材の安定的確保が課題である。	学校教育課
	I	2	(10)										
39	V	1	(1)	地域に開かれた幼稚園づくり推進事業	市	幼稚園を地域に開放し、園庭開放や園児と未就園児親子の交流活動、子育て情報提供・相談等を実施する。	実施施設:幼稚園23園 ・園庭開放、園児と未就園児親子の交流活動、子育て相談等を実施した。	実施幼稚園数	23園	23園	A	園が地域の未就園児が安心して遊ぶことのできる場所となったり、保護者の子育ての悩みを軽減できる機会となった。今後も継続していく。	こども園運営課
	V	2	(1)										
40	V	2	(1)	子育て支援総合情報発信事業	市	各種子育て支援情報を集約し、活用しやすい「子育てハンドブック」と最新情報を提供する「子育て支援総合情報サイト」により、積極的な情報提供を図る。	サイトの情報更新・運営管理、ハンドブックの情報管理などを行った。子育てハンドブック「たかまつらっこ」の情報管理及び増刷(4,700部)子育て支援総合情報サイト「らっこネット」の運営	たかまつ子育て情報サイト「らっこネット」のアクセス件数	68,323件	56,491件	B	子育てハンドブック等の作成、情報サイトの運営を行うことにより、子育て親子への情報発信が図られた。	子育て支援課
41	V	2	(1)	地域子育て支援拠点事業	市(委託、直営)	乳幼児及び保護者が相互交流する場を開設し、子育てについての相談、情報提供、助言など支援を行う。	次の基本事業を実施。 (1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進に関すること。 (2) 子育て等に関する相談、援助の実施に関すること。 (3) 地域の子育て関連情報の提供に関すること。 (4) 月1回以上の子育て及び子育て支援に関する講習等の実施に関すること。 委託:10か所 直営:2か所	開設か所数	12か所	12か所	A	利用ニーズの高まりに合わせ、開設箇所数を12か所設けており、地域の子育て支援機能の充実が図られている。	子育て支援課
42	V	2	(1)	子育て相談事業	市	子育てに関する多種多様な相談に、専門の相談員が指導・助言・情報提供などを行う。	子育てに関する多種多様な相談に、専門の相談員が指導・助言・情報提供などを行う。	子育て相談件数	223件	161件	C	養育に不安をもつ保護者に対し、専門の相談員が、助言を行うだけでなく、適切な窓口や専門機関を紹介することができた。 電話や来所による相談対応だけでなく、家庭訪問等の他の方法での相談にも対応するとともに、他の子育て相談窓口と連携することで、虐待等の予防、及び早期発見・早期対応につなげていく必要がある。	こども女性相談課
43	V	2	(1)	地域子育て支援拠点事業	市(委託、直営)	乳幼児及び保護者が相互交流する場を開設し、子育てについての相談、情報提供、助言など支援を行う。	私立保育所及び認定こども園に委託(旧センター型) 17か所 週6~7日開設 8,703千円×1か所 週5日開設 8,152千円×15か所 小規模型 2,909千円×1か所 (利用者支援事業5日型 7,389千円×1か所)	実施施設数	17か所	17か所	A	昨年度と同じ実施施設数であるが、乳幼児及び保護者が相互交流する場を開設し、子育てについての相談、情報提供、助言などの支援を行うことができた。	こども園総務課

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
44	V	2	(1)	地域子育て推進事業	市(委託、直営)	子育て家庭の不安を軽減するため、保育所等を地域に開放し、育児相談や子育てサークル支援等を行う。	私立保育所及び認定こども園 18か所(委託料:1か所当たり9500千円が上限)	実施施設数	17か所	18か所	A	事業の実施施設数が増加したことにより、育児相談や子育てサークル等に対する支援の充実につながった。	こども園総務課
45	V	2	(1)	地域子育て推進事業	市(委託、直営)	子育て家庭の不安を軽減するため、保育所等を地域に開放し、育児相談や子育てサークル支援等を行う。	実施施設:保育所20園・こども園6園 ・保育所:およそ月1回年間10回開催 ・こども園:月1回年間12回開催 親子で保育所のおもちゃや固定遊具で遊んだり、保育士に育児相談をしたりして親子で楽しんでいった。	実施施設数	市立保育所20か所 市こども園 6か所	市立保育所20か所 市こども園 6か所	A	親子で参加しやすい雰囲気づくりや育児相談の充実、子どもが親子で楽しめるような保育内容など引き続き継続していく。	こども園運営課
46	V	2	(1)	保育所・幼稚園への出前食育事業	市	保育所・幼稚園等において、子どもたちや保護者に講話やエプロンシアター・紙芝居等を実施し、幼児期からの正しい食習慣づくりを支援する。	保育所・幼稚園等において、児童や保護者を対象に、講話やエプロンシアター・紙芝居等を実施した。 市立保育所 23か所、市こども園 5か所、市立幼稚園 11か所 合計 39か所で実施	実施施設数	22か所	39か所	A	新たな施設からの依頼もあったため、実施施設数が、前年度よりも増加した。今後も、実施施設数を増やすため、周知時期等の検討が必要である。	こども園運営課
47	V	2	(1)	はじめてのパパママ教室	市	はじめての出産を迎える夫婦を対象に、妊娠中の生活や出産・育児についての講義と実習を行う。	日曜コース11回 平日コース3回 地区コース11回 計25回実施(新型コロナウイルスの影響で3回中止)	参加者数	1,020人	943人 (3回中止)	B	ニーズの高い事業であり、令和2年度より回数を増やして対応する。また、引き続き、参加者のアンケート結果などをもとに教室内容を検討していく。	健康づくり推進課
48	V	2	(1)	フードスタート運動	市	授乳期・離乳期及び幼児期における健康教育事業等の中で、「食」についての講話や関係資料の配付等を行う。	授乳期・離乳期及び幼児期における健康教育事業の中で「食」についての講話や関係資料の配付等を行った。 211回、3191人(4か月児相談のみ)	食育に関心を持つ人の割合	83.5%	84.6%	A	対象世代に応じた資料や媒体等を作成し、食育の啓発を推進した結果、目標を達成することは出来なかったが、昨年度より関心度は高くなった。今後、より一層の食育の推進を図るため、具体的な啓発内容を検討していく必要がある。	健康づくり推進課
49	V	2	(1)	乳幼児相談・育児相談事業	市	保健師や栄養士が乳幼児の成長発達を確認し、栄養・育児等の知識や子育て情報の提供など、子どもの発育・栄養・育児等の相談を行う。	保健師や栄養士が乳幼児の成長発達を確認し、栄養・育児等の知識や子育て情報の提供など、子どもの発育・栄養・育児等の相談を行った。	来所者数	9,786人	9,643人	B	引き続き、栄養・育児等の知識や子育て情報の提供など、子どもの発育・栄養・育児等の相談を行っている。	健康づくり推進課
50	V	2	(1)	学校教育における食育推進事業	市	学校給食を中心とした食育の取組みを紹介するとともに、食の現状や課題への理解を深め、食の大切さを伝えるために、「食育セミナー」を開催する。	高松市朝日新町学校給食センターで年4回(7月、8月、11月、12月)実施。 7月 朝日新町学校給食センター見学会 16組38人 8月 子ども料理教室 16人 11月 きのこ工場見学 11組24人 12月 親子料理教室 7組15人	食育セミナー開催回数	4回	4回	A	調理場見学会や料理教室等の食育セミナーを通して、学校給食や食への関心を高め、家庭における食生活を直す機会を提供することができた。	保健体育課
51	V	2	(1)	子育て力向上応援講座	市	就学時健康診断等の機会を活用し、就学前児童の保護者を対象に、家庭教育の専門家等による講座を開催する。	就学時健診等を活用して、新1年生の保護者等を対象に子育て力向上応援講座を開講した。 ・小:学校説明会46、就学時健診47 ・市立幼こ:26 ・私幼:4 ・教育フォーラム:1	講座実施か所数	126か所	124か所	B	概ね予定通り実施できたが、講座当日にインフルエンザのため学年閉鎖になったことで、講座実施か所数が昨年度より減少した。今後、実施していない市立幼稚園等に対して、積極的に開催を促す必要がある。	生涯学習課

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
52	V	2	(1)	家庭教育講演会	市	次代を担う子どもたちの健全育成、家庭教育力の向上のため、保護者を対象に専門講師による講演会を開催する。	演題:「今、子どもたちの中で何が起きているのか ～知るべきネット社会に潜む闇～」 講師:情報教育アナリスト 長谷川 陽子氏 日時:令和元年10月19日 午後7時～8時40分 場所:まなびCAN(多目的ホール)	参加人数	115人	81人	C	情報化社会であることから、情報教育をテーマに、身近なネット犯罪やネット依存、またそれらの危険から身を守るための対策等を取り上げたが、参加者は伸びなかった。保護者の参加しやすい家庭教育情報テレビや子育て力向上応援講座で家庭教育を推進するため、令和元年度をもって廃止する。	生涯学習課
53	V	2	(1)	家庭教育情報テレビ事業	市	7月の家庭教育月間に高松ケーブルテレビ「ホットライン高松」において、家庭教育・子育てに関する情報を放映する。	放送期間:令和1年8月1日～31日 講師:岡 静子 テーマ:身につけよう!正しい生活習慣～家庭で取り組む「早寝早起き朝ごはん」～	モニターによる満足度	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	予定どおり実施できた。	生涯学習課
54	V	2	(1)	早寝早起き朝ごはん運動普及啓発事業	市	子どもの基本的な生活習慣の定着を図るため、就学時健康診断等の機会を活用し、啓発チラシの配布・説明等を行う。	・生活リズムチェック事業(小・中学校)を実施 ・食育フェスタ、学校給食展での啓発コーナーの設置 ・子育て力向上応援講座での啓発活動	朝ごはんを食べている子どもの割合(全国学力・学習状況調査 香川県公立小学校6年生)	83.3%	85.2%	A	朝ごはんを食べている子どもの割合(全国学力・学習状況調査 香川県公立小学校6年生)については、前年度の達成率を上回ることができた。 生活リズムチェックシートの調査結果によると、「起床時刻」、「読書」、「運動」の3項目について前年度の達成率を上回ることができたが、全体としては前年度に比べ達成率がやや低かった。 今後も、生活リズムチェックシートを配布することにより、自分自身の生活態度を見直す機会を与える。また、子育て力向上応援講座等での啓発活動を行っていく。	生涯学習課
55	V	2	(1)	家庭教育学級	市	家庭における子育てなどの諸問題や家族の役割等についての学習機会を確保することにより家庭の教育力の向上を図る。	家庭における子育てなどの諸問題や家族の役割等についての学習機会を確保することにより家庭の教育力の向上を図るため、小学校等で家庭教育学級を開催した。	参加者数	11,805人	11,687人	B	前年度とはほぼ同様の参加者数を募ることができた。今後は、家庭教育学級の主催者が円滑に運営できる体制の構築を検討する必要がある。	生涯学習センター
56	V	2	(1)	こどもスマイルテレホン事業	市	家庭問題・不登校・非行やいじめ等、子どもに関する悩みの相談窓口として「こどもスマイルテレホン」を開設する。	相談件数54件	相談件数	69件	54件	C	それぞれの悩みについて相談窓口としての対応ができた。 こどもスマイルテレホンカードを配ったり、国や県など他の相談窓口の紹介を行ったりして、相談機会の周知を幅広く行っていく。	少年育成センター
57	V	2	(1)	ブックスタート事業	市	4か月児相談の機会を活用し、絵本バックの贈呈、その利用方法と効用を説明し、楽しい子育て、読書への動機付けを図る。	4か月児相談時に、絵本バックを贈呈し、ボランティアの協力により、読み聞かせ等を行った。また、4か月児相談に参加していない世帯には、保健師が家庭訪問時に絵本バックを贈呈し、計3,073名に絵本バックを贈呈した。なお、コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年2月末からはよみきかせの実施を中止した。	絵本バックの交付率	96%	95.10%	B	転出等により100%にすることは難しいものの、ほぼ全ての対象者に絵本バックを贈呈できていると思われる。また、コロナウイルスの終息が見通せない中、本来ならば実施しているよみきかせをいつから開催できるか不明である。	中央図書館
58	V	2	(1)	「いじめ110番」電話相談事業	市	いじめ問題の早期発見・対応に生かすため、いじめ110番を設置し、児童・生徒、保護者等からの相談に対応する。	2名の専門スタッフにより、相談電話を受けた。各事案に対しては、学校教育課、学校等と連携し迅速に対応したことで、各校で早めの対応を行うことができた。	電話相談窓口相談	38件	26件	C	相談を受けた事案について、重大事態に進展した事例がなく、ほとんどの事案が終息に向いている。 今後は、対象者への周知の仕方をさらに工夫していく。	総合教育センター

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
59	V	2	(1)	不登校等に関するカウンセラーによる教育相談事業	市(委託、直営)	適応指導教室の児童生徒をはじめ、不登校および不登校傾向の児童生徒やその保護者に対して、継続的な相談活動を行う。	カウンセラー2名で教育相談を実施した。また、それ以外に年間12回の事例検討会、11回の親の会、その他通室支援検討会にスーパーバイザーとして指導助言を行った。	教育相談実施回数	138回	123件	B	教育相談は継続的に利用する割合が多く、利用者の満足度は高い。親の会の内、2回は夜会としたことで、参加者のニーズに応えることができた。教育相談予約がすぐに埋まってしまい、希望があっても何週間か先ということもあり、改善が必要である。	総合教育センター
	I	2	(3)										
60	V	2	(1)	児童館事業	市	子どもの遊びの拠点・居場所として、遊びや生活を通して子どもの発達・進進を図るほか、子育て家庭への相談・援助、交流の場の提供等を行う。	様々なイベント等の開催により、利用者数の増加を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数は昨年度より減少した。 利用者数:49,424人	利用人数	58,010人	49,424人	B	利用者数が減少傾向にあることから、開催イベント内容や情報発信の見直し等により、利用者数の増加を図る。また、今後の利用者数の推移や老朽化の状況を見る中で、市全体の児童館の今後のあり方を検討する。	子育て支援課
	IV	1	(1)										
61	V	2	(2)	子ども未来ネットワーク会議	市	子育て支援団体等の相互交流・情報交換の場として、部門別会議や座談会を開催し、連携・協働を図る。	子育て支援事業を実施する団体ごとのネットワークを構築する部門別会議を開催。 ・地域子育て支援拠点部門(2回) 各種子育て支援事業実施団体が一堂に会し、打ち解けた雰囲気の中で互いのことを知り、意見交換できる場を提供するために「子ども未来ネットワーク会議座談会」を開催。(2回)	年間会議開催回数	6回	4回	C	地域組織(母親クラブ)補助事業の廃止に伴い、当該部門の開催を取り止めたため、前年度比で開催回数については減少したが、全体としては子育て支援団体の相互交流、情報共有を図ることができた。 開催回数のみでは適切に評価できないおそれがあるため、例えば開催人数とするなど、今後、指標の見直しを検討する必要がある。	子育て支援課
62	V	2	(2)	子どもを中心とした地域交流事業	市	地域で活動する各種団体等が協働することにより、団体の持ち味やネットワークを活かしながら、子ども及び保護者並びに地域の大人が関わる継続的な事業を実施することで、地域の住人が顔見知りになるほか、地域の一体感を醸成するとともに、地域ぐるみで子どもを育む機会を高める。地域交流事業の一環として、通学合宿を併せて実施することができる。	①弦打(夏まつり、通学合宿等)②十河(さつまいも栽培、ドミノ、通学合宿等)③植田(農園、キャンプ等)④日新(ラジオ体操、防災教室等)⑤三谷(農園体験、花栽培等)⑥川岡(プロッコリ栽培、寄せ植え体験等)⑦亀阜(ラジオ体操、夏祭り等)	実施団体数	(1)地域交流事業 新規3校区、継続7校区 (2)通学合宿事業 新規0校区、継続2校区	(1)地域交流事業 新規1校区、継続6校区 (2)通学合宿事業 新規0校区、継続2校区	C	実施した団体からは、地域内でのつながりが増えてよかった等の意見が多くある。 新規での実施希望地域が減ってきているので、周知方法等を検討していく必要がある。	生涯学習課
63	V	2	(2)	地域コミュニティ人材養成事業	市	まちづくり活動の中核を担う地域のリーダー養成を目的とした人材養成事業を実施する。	令和2年2月1日(土) ○講師 大杉 寛 氏 (首都大学東京 教授) ○対象者 地域コミュニティ関係者 92人	研修会の参加人数	472人	92人	C	地域の課題に的確に対応した講師選定により参加者の評価は高かった。今後も複雑化する地域課題に対して、継続的に取り組めるように、テーマ設定等を検討していく必要がある。	コミュニティ推進課
	VI	1	(2)										
64	VI	1	(1)	男女共同参画センター学習	NPO法人たかまつ男女共同参画ネット(委託)	高松市男女共同参画センターにおいて、男女共同参画に関する各種セミナー・講座を開催する。	男女共同参画に対する理解を深めるため、男女共同参画センターにおいて、各種セミナー・講座を実施した。 学習研修事業(全57回) ・だれもがいきいき参画・まちづくり講座(5回) ・参画センター出前セミナー(7回) など	学習研修事業の参加者数	3,588人	2,034人	C	年度末に新型コロナ感染拡大防止のため、中止、延期となった講座があったため、昨年度より参加人数が減少したものの、それ以外は予定通りに事業が実施され、内容も多彩なものを開催することができたと考える。今後もセミナー等の受講者の増加を図るための取組を行い、成果の向上に努める。	男女共同参画・協働推進課
65	VI	1	(1)	男女共同参画週間事業	市	男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画の啓発のための講演会・パネル展、弁護士による法律講座・相談等を実施する。	男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画の推進にかかる講座等を行った。 男女共同参画啓発事業(6/23～7/1) ・女性弁護士による講座・相談 ・パネル展 ・啓発グッズの配布	男女共同参画週間中の参加者数	951人	1,250人	A	講演会は財源の関係で実施できなかったものの、その他の事業に関しては予定通り実施できた。パネル展、女性弁護士による相談については、参加者には好評であった。今後も、周知等の取組を強化することで参加者の増加を図るなど成果の向上に努める。	男女共同参画・協働推進課

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
	種別	区分	回数					指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
66	VI	1	(1)	男女共同参画市民フェスティバル	男女共同参画市民フェスティバル実行委員会(補助)	高松市男女共同参画センター登録団体が中心となり、講演会の開催・パネル展・ワークショップ等を開催する。	高松市男女共同参画センター登録団体が中心となり、講演会の開催、パネル展・ワークショップ等を11/23～12/8に開催した。	男女共同参画市民フェスティバルの参加者数(講演会、パネル展、ワークショップ合計)	1,750人	2,134人	A	予定通り事業が実施された。男女共同参画センターが中心となり、講演会のほか様々な参加団体によるワークショップやパネル展、映画上映会等を開催した。今後、参加者の増加に向けて取組を続けていく。	男女共同参画・協働推進課
67	VI	1	(1)	市民活動センター情報発信事業	市	市民活動センターホームページ「ふらつと高松」において、NPO等団体の情報を収集・発信する。	ホームページ「ふらつと高松」、メールマガジン、フェイスブック及び機関誌「コラボかまづ」等を活用し、情報発信を行うことができた。また、ケーブルテレビ「コミュニティチャンネル」に市民活動団体活動紹介チャンネルを設け、市民活動に取り組み市民自ら出演し、効果的な活動紹介を行うことができた。このほか、NPO法人との連携強化のため、本市が所轄庁となるNPO法人とのネットワークづくりに役立つ情報発信を行う取組を行った。	ホームページ登録団体数	212団体	109団体	C	NPO法人にメールでの情報配信を開始することで連携強化が図れた。引き続き、市民活動センター機能の一つである「情報収集・発信」に取り組み、市民活動団体の支援の充実を図る。	男女共同参画・協働推進課
68	VI	1	(1)	地域コミュニティ協議会情報発信事業	市	市民・地域コミュニティ協議会・行政が双方から情報収集・発信・ネットワーク形成できる情報拠点として、ポータルサイト「コミねつと高松」を運営する。	地域の情報収集、発信、ネットワーク形成できる情報拠点として、運営をした。HPの見直しに関しては、令和3年度での実施を予定。	ポータルサイトへの掲載団体	40団体程度	40団体程度	A	地域コミュニティ協議会からの情報発信によりネットワーク形成できる情報拠点として活用する事ができた。	コミュニティ推進課
69	VI	1	(1)	消費者教室	市、高松市消費者団体連絡協議会(共催)	新しい時代に対応できる自立した消費者の育成・意識高揚のため、金銭教育をテーマにした小学生対象の親子教室を開催する。	夏休み親子消費者教室の実施(8月2日)参加者:市内の小学生の親子18組45人	参加人数(組)	36組	18組	C	事業実施時に行ったアンケート結果では、「とても楽しかった」、「まあまあ楽しかった」と答えた割合が約88.2%と平成30年度より高かったが、参加人数(組)は減少したため、より多くの人に参加してもらえよう、イベント内容や周知方法等を見直す必要がある。	くらし安全安心課
70	VI	1	(1)	多重債務問題研修会	市、高松市消費者団体連絡協議会(共催)	多重債務問題の根本的な解決を目指し、多重債務の現状や解決方法についての研修会を開催する。	市民と市職員を対象に「多重債務問題研修会」を開催(9月28日)参加者109人	参加人数	115人	109人	B	事業実施時に行ったアンケート結果から、「大変よかった」、「まあまあよかった」と答えた割合が約94.6%と平成30年度より高く、満足度の高い内容となった。今後もより多くの人に参加してもらえよう、イベント内容や周知方法等を工夫して実施する。	くらし安全安心課
71	VI	1	(1)	消費者ウイーク	市(消費生活パネル展は県との共催)	消費者の日(5月30日)を含む消費者ウイークに、各種啓発事業を実施する。	「暮らしをみなおす市民のつどい」と同時開催 令和元年5月25日・26日 イオンモール高松1階シーコート 入場者 約3,000人 ・消費者月間事業記念講演会 テーマ「データと事例で学ぶ「子どもの事故」～小さいのちを守るために～」 令和元年5月18日 IKODE瓦町 健康ステーション大会議室140人受講	入場者数	①3,200人 (市民のつどいと同時開催) ②54人 (記念講演会) ※①については、No.6事業と同じであるので左記目標達成度については②のみを対象として行う。	①3,000人 (市民のつどいと同時開催) ②40人 (記念講演会) ※①については、No.72事業と同じであるので左記目標達成度については②のみを対象として行う。	C	事業実施時に行ったアンケート結果から、「大変よかった」、「まあまあよかった」の合計が約80.1%と高い満足度が得られたが、入場者数が平成30年度より減少したため、イベント内容や周知方法等を見直す必要がある。	くらし安全安心課
72	VI	1	(1)	暮らしをみなおす市民のつどい	高松市暮らしをみなおす市民のつどい運営委員会	市と高松市消費者団体連絡協議会とで組織する高松市暮らしをみなおす市民のつどい運営委員会の主催により、市民参加型の消費者の祭典として実施し、パネル展・活動発表・講座等を開催する。	「消費者ウイーク事業」と同時開催 令和元年5月25日・26日 イオンモール高松1階シーコート 入場者 約3,000人 消費者問題に関する啓発等を目的とした各種事業(パネル展・エコ工作ほか)	入場者数	①3,200人 (消費者ウイーク事業と同時開催)	①3,000人 (消費者ウイーク事業と同時開催)	B	事業実施時に行ったアンケート結果から、「大変よかった」、「まあまあよかった」の合計が約80.1%と高い満足度が得られ、入場者数についても、おおむね前年度並みとなり、今後もより多くの人に参加してもらえよう、イベント内容や周知方法等を工夫して実施する。	くらし安全安心課

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
73	VI	1	(1)	消費生活出前講座	市	消費生活を取り巻く社会経済情勢に対応し、消費者意識の高揚・消費生活に関する知識の普及のため、消費生活出前講座を実施する。	実施回数:9回(高齢福祉関係事業者・老人会等)	講座数	8回	9回	A	高齢者福祉関係事業者等から多く申し込みがあり、講座数は平成30年度より増加した。消費者トラブルに遭いやすい高齢者に向けた啓発を行うことが出来た。	くらし安全安心課
74	VI	1	(1)	交通安全教室	市	市民の交通安全意識の向上を図るため、幼児、児童、生徒のほか高齢者を対象とし、年齢に応じた交通安全教室を実施する。	市民の交通安全意識の向上を図るため、幼児、児童、生徒のほか高齢者を対象とし、年齢に応じた交通安全教室を実施する。	交通安全教室開催回数	1,560回	1,945回	A	令和元年度は前年度の実績を上回ったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の関係で、交通指導員が学校等を訪問して行う教室が開催できないケースが発生しているため、それに代わる方法での教室を検討する必要がある。	くらし安全安心課
75	VI	1	(1)	人権・同和問題啓発活動事業	市、コミュニティセンター、高松市人権啓発推進協議会(26年度以降、人権尊重都市たかまつ市民会議)	市民の人権意識の普及・高揚を図るため、啓発物品等の作成・配布及び人権フェスティバル、市民のつどい、ハンセン病を正しく理解する講演会等を開催する。	○人権啓発用パンフレット、啓発物品等の作成・配布 ○人権フェスティバルの開催 年1回 ○スマイルフェスティバルの開催 年1回 ○ハンセン病を正しく理解するパネル・作品展 ○ハンセン病を正しく理解する講演会の開催 年1回 ○人権の花運動 小学校6校配置	人権フェスティバル、平和と人権を守る市民のつどい(R1年度以降、スマイルフェスティバル)、ハンセン病を正しく理解する講演会参加者数	○人権フェスティバル 3,300人 ○人権を守る市民のつどい 150人 ○ハンセン病を正しく理解する講演会 182人、パネル・作品展 1,758人	○人権フェスティバル 1,700人 ○スマイルフェスティバル 800人 ○ハンセン病を正しく理解する講演会 231人、パネル・作品展 1,598人	B	計画どおり事業を実施でき、人権意識の普及・啓発に活かすことができたため、今後も継続して事業を実施していく。	人権啓発課
76	VI	1	(1)	地域における人権啓発推進事業	市、地域コミュニティ協議会	各地域コミュニティ協議会で選任された人権啓発推進員が、生涯学習推進員と協力して、地域の生涯学習における人権に関する講座の企画・運営及び広報活動を実施する。	○人権啓発推進員研修会の開催 年2回 ○地域の「生涯学習事業」の中で実施されている人権に関する講座の企画・運営及び広報活動 参加者数 延べ8,282人	人権に関する講座等の参加人数	4,968人	8,282人	A	人権啓発推進員の工夫により様々な形態での啓発事業を実施し、広く市民の人権意識の普及・高揚に努めたこと、また、事業形態を変更したことにより参加者数は増加した。今後も啓発活動を継続し、参加者のさらなる増加に努める。	人権啓発課
77	VI	1	(1)	人権・同和問題指導者養成事業	市	人権を尊重する明るい職場づくりや人権に配慮したやさしい企業づくりを推進するため、市内の事業所の代表者や人権啓発等を担当する職員を対象に、指導者研修講座を開催する。	参加企業500社 参加者数 延べ1,023人	人権・同和問題指導者研修講座参加者数	参加企業400社 延べ763人	参加企業500社 延べ1,023人	A	参加者は30年度より増加しているが、今後は開催日時や講座内容を見直し、参加者が増えるように努める。	人権啓発課
78	VI	1	(1)	平和啓発推進事業	市	平和意識の啓発・普及のため、平和を語るつどい、映画祭、空襲写真展、戦争遺品展、講演会等を開催する。	○平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭(5月18日)、高松空襲写真展(6月28日～7月8日)、高松市戦争遺品展(7月23日～29日)、戦争・原爆被災展(8月8日～14日)、教職員のための平和教育講演会(12月26日)、収蔵品巡回展(2月20日～3月3日)、小中学校での平和講演会(6月21日、12月4日) ○平和記念だよりの発行(4回)	平和記念館(仮称)入館者数、平和意識の啓発事業の参加者数	平和記念館入館者数 19,373人、平和意識啓発事業参加者数 7,002人	平和記念館入館者数 16,781人、平和意識の啓発事業参加者数 7,356人	B	入館者数は低下しているものの、平和意識の啓発事業参加者数は、新たな啓発事業の実施などにより増加しており、平和意識の普及・啓発を充実させることができた。 今後とも、多様な媒体での事業の周知、事業内容の充実や多数の参加者が望める場所での啓発事業の実施に努める必要がある。	人権啓発課
79	VI	1	(1)	公文書館管理運営	市	歴史公文書等の保存、利用及び調査研究並びに普及啓発を行う施設として公文書館を管理運営する。	・庵治支所(旧庵治町)文書整理及び歴史公文書等の移管 ・庵治支所(旧庵治町)文書目録作成 ・高松市分歴史公文書等の例年移管 ・公文書館利用促進(公文書館企画展及び巡回展・親子体験教室)	収蔵資料数	【所蔵数】 特定歴史公文書等 49,000点 行政資料 約10,000点	【所蔵数】 特定歴史公文書等 91,154点 行政資料 11,683点	A	十分に成果が上がっている。令和2年度以降も引き続き、旧合併町分文書を含めた文書整理を行い、歴史公文書等の保存、利用や普及啓発に努め、市民の共通の財産である公文書等の収蔵に努める。	総務課

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
80	VI	1	(1)	防災講演会	市	防災士を始め、各地で地域防災に関心のある市民を対象に、地域防災に取り組むために必要な内容について、学識経験者等を講師に招き、防災講演会を開催する。	国分寺北部校区自主防災組織連絡協議会会長と高松地方気象台から気象防災情報調整官を招いて、それぞれ、「地区防災計画の策定について」、「防災気象情報の活用」を演目に講演いただいた。	参加者数	102人	76人	C	市民防災講演会について、前年度より参加者が減少した。内訳として一般市民の参加は増加しているが、地域コミュニティからの参加者が減少していた。大勢の参加が、市民の防災意識の向上につながるため、開催周知方法や開催内容について検討する。	危機管理課
81	VI	1	(1)	市政出前ふれあいトーク事業	市	市政の仕組みや取り組んでいる施策・事業、今後の検討課題等について、設定テーマに応じて、職員が地域へ出向き、説明及び情報提供・意見交換を行う。	テーマ数:154 実施件数:509件 参加人数:15,327人	市政出前ふれあいトークの実施回数	652回	509回	C	実施件数については、申込件数が減少していることに加え、3月以降の新型コロナウイルスの影響もあり、前年度に比べ約22%減少した。次年度以降についても、広報高松やホームページ等を活用し、市民に周知していきたい。	広聴広報課
82	VI	1	(1)	広報たかまつによる情報提供	市	生涯学習情報を始め、各種の市政情報を発信するため、毎月1日・15日に「広報たかまつ」を発行する。	「広報たかまつ」を月2回(1日・15日)発行した。	-	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	生涯学習情報を始め、各種の市政情報を発信するため、毎月1日に「広報 高松」を発行する。	広聴広報課
83	VI	1	(1)	市ホームページによる情報提供	市	生涯学習情報を始め、各種の市政情報を発信するため、市ホームページ「もっと高松」の管理・運営を行う。	本市ホームページ「もっと高松」の管理・運営を行った。	-	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	生涯学習情報を始め、各種の市政情報を発信するため、市ホームページ「もっと高松」の管理・運営を行う。	広聴広報課
84	VI	1	(1)	高松いきいき大学事業	高松市老人クラブ連合会(補助)	高松市老人クラブ連合会において、市内在住の60歳以上の高齢者を対象に、3学科(健康・文化・生活)の高松いきいき大学を開講する。	【健康学科】受講者 40人 【文化学科】受講者 53人 【生活学科】受講者 39人 令和元年5月～令和2年1月まで、月に2回程度、講座や合同特別講座、課外学習などを実施。	受講者数	142人	132人	B	昨年度と同程度の受講申込があり、受講者は講義、課外学習に参加することにより、知識習得、心身の健康保持、交流を通じた仲間づくりなど、地域福祉向上を推進するリーダーとしての資質を高めることができた。新型コロナウイルスの影響により2月開催予定の講座が実施できなかったため、今後は、新しい生活様式に沿った講座実施方法について検討し、慎重に対応する必要がある。	長寿福祉課
85	VI	1	(1)	認知症サポーター養成講座	市	認知症高齢者等に対する正しい知識を持ち、地域で認知症高齢者等や家族を支援するサポーターを養成し、安心して暮らせる地域づくりの担い手を増やす。	認知症高齢者等に正しい知識を持ち、地域で認知症高齢者等や家族を支援するサポーターを養成する認知症サポーター養成講座を市内109か所で開催した。	認知症サポーター数	認知症サポーター 養成人数4,725人	認知症サポーター 養成人数4,042人	B	前年度より実績は下がったものの、認知症サポーターを年間3,000人を養成することを目標にしており、目標は達成することができた。今後より広く地域で認知症高齢者等や家族を支援するサポーターを養成し、地域で安心して暮らせる地域づくりの担い手を増やしていく必要がある。	地域包括支援センター
86	VI	1	(1)	環境学習・環境教育の推進事業	市	環境ワークショップ、環境学習支援事業、リサイクルアート事業、自然観察体験事業などを実施する。	主催講座9講座155名 自然観察4講座91名 出前講座45講座2283名	環境学習、環境教育等参加人員	1,949人	2,529人	A	主催講座は、コロナの影響による中止等で前年を下回ったが、出前講座については、小学校の参加人数増により、全体としては前年を上回った。今後とも環境問題を考えるきっかけ作りとして、環境活動団体や関係機関と協力して環境学習講座を実施し、広報紙やホームページに掲載し、参加者の増加に努める。	環境保全推進課
87	VI	1	(1)	高松テルサ文化教養・研修事業	市	勤労者の福祉の充実、勤労意欲の向上のため、高松テルサで、各種文化教養・スポーツ講座等を開催する。	平成30年度をもって高松テルサ閉館により事業未実施。	文化教養、研修事業参加者数	2,020人	平成30年度をもって高松テルサ閉館により事業未実施。	(評価不可)	高松テルサについては平成30年度をもって廃止している。	産業振興課

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
88	VI	1	(1)	かがわ国際フェスタ	市	国際交流・協力活動への参加・理解の促進、市民と在住外国人の相互理解・交流を深めるため、「かがわ国際フェスタ」を開催する。	(公財)香川県国際交流協会等との共催で、令和元年10月14日(月・祝)に香川国際交流会館(アイバル香川)を会場として「かがわ国際フェスタ2019」を開催した。約5,700人が様々なイベントに参加し、国際交流への理解を深めることができた。	「かがわ国際フェスタ」参加者数	4,700人	5,700人	A	目標を上回る参加者数で多くの市民が在住外国人などと触れ合い交流を深めることができた。 今後もイベントの開催を通して、国際交流・国際協力に携わる団体相互の連携強化や、市民の国際交流・協力活動への参加・理解を促進していく。	都市交流室
89	VI	1	(1)	瀬戸内国際芸術祭推進事業	瀬戸内国際芸術祭実行委員会(補助)	文化芸術の振興と瀬戸内の活性化・地域振興、世界への情報発信のため、3年毎に国際的な芸術祭として「瀬戸内国際芸術祭」を開催する。	瀬戸内国際芸術祭2019 女木島 来場者数合計:80,007人(春25,698、夏23880、秋30,429) 男木島 来場者数合計:71,809人(春22,967、夏21,908、秋26,934) 大島 来場者数合計:12,877人(春3,040、夏4,322、秋5,515) 高松港 来場者数合計:101,336人(春38,964、夏32,475、秋29,897)	来場者数	(評価不可)	266,029人	A	成果:国内外から数多くの来場者が、会場となった3島及び芸術祭のマザーボートである高松港周辺に訪れ、大いに賑わった。また、Booking.comで2020年に訪れるべき目的地TOP10に、Skyscannerでアジア太平洋地域の2020年の旅行トレンドにおいて注目すべき新興目的地TOP10に日本で唯一選出された。 課題:市町のさらなる主体性の発揮を求められており、会場となる地域の声を丹念に拾う必要がある。	文化芸術振興課
90	VI	1	(1)	市民文化祭	高松市市民文化祭実行委員会(補助)	市民企画提案型事業「アーツフェスタたかまつ」と、各地区の特性を生かした地区文化祭の開催を支援する。	開催団体:主催事業15団体、後援事業1団体 鑑賞者数:7,978人	アーツフェスタ鑑賞者数	9,066人	7,978人	B	サンポートホール高松大ホールでのオープニング事業の開催がなかったことに加え、事業によって公演数が異なることがあり(1事業で複数の公演をする場合がある。)H30年度に比べてホール公演が2回減少したため鑑賞者数が減少した。 今後は、申込み団体の増加を図り、これまで以上に多彩な公演構成になる市民文化祭を目指すとともに、鑑賞者及び出演者ともに広く市民を巻き込んで開催する必要がある。	文化芸術振興課
91	VI	1	(1)	デリバリーアーツ事業	公益財団法人高松市文化芸術財団(委託)	普段の生活の中で身近で気軽に文化芸術に親しむ機会づくりとして、市民の希望により出前公演を実施する。	開催回数:全20回(内さぬき市、綾川町各1回、東かがわ市3回) 鑑賞者数:2,521人(内市外開催地470人)	デリバリーアーツ鑑賞者数	2,240人	2,521人	A	市内における鑑賞者は概ね前年度の実績と、例年、開催実績のある協力団体からの申込みも一定数あり開催満足度の高い事業といえる。 また、瀬戸・高松広域連携中核都市圏ビジョンに基づく連携市町における開催が増加し鑑賞者数が増加した。 今後は、協力団体及び出演者に偏りが生じないよう、老若男女を問わない幅広い世代が鑑賞できるメニューラインナップを提案し申込み団体と鑑賞者の増加に努める必要がある。	文化芸術振興課
92	VI	1	(1)	文化芸術ホール自主事業	公益財団法人高松市文化芸術財団(補助)	文化芸術ホールにおいて、文化芸術の振興・普及のため、コンサート等各種事業を開催する。	主催(補助)事業14事業、主催(独自)事業3事業、共催事業5事業を実施	自主事業鑑賞者数	16,094人	2,1388人	A	成果:令和元年度は高松市文化芸術ホール開館15周年であったことから、各種記念事業を実施したことにより、鑑賞者数が大幅に増加した。 課題:今後ホールの長期休館を予定していることから、アウトリーチ主体等、新たな自主事業の形を検討する。	文化芸術振興課
93	VI	1	(1)	まちなかパフォーマンス事業	MUSIC BLUE TAKAMATSU 実行委員会(委託) 街クラシック in たかまつ 実行委員会	芸術文化への関心を高め、中心市街地のにぎわいを創出するため、サンポート高松・丸亀町商店街などで、アートに関連した各種イベント等を実施する。	・TAKAMATSU MUSIC BLUE FES 2019 ・街クラシックin高松 ・高松フラストリート ・サンポートオータムジャム ・たかまつ大道芸フェスタ 上記5事業を実施	まちなかパフォーマンス事業鑑賞者数	108,810人	124,770人	A	成果:鑑賞者数が5事業ともに増加した。 課題:実行委員会加入団体の各負担金と事業規模のバランスを考慮しつつ、協賛金収入の獲得を目指し、安定的な事業運営を図る。また、新県立体育館の整備工事等により、新たな会場の確保を検討する。 元年度に初めて実施したストリートピアノを活用し、各種イベントと連携させる等、多様な展開を図る。	文化芸術振興課

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
	種別	分野	回数					指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
94	VI	1	(1)	ふるさと探訪事業	市(高松市歴史民俗協会、(H26～)高松市文化財保護協会と共催)	市内・近郊各所の文化財に触れ、郷土の歴史・文化の学習ができるよう、年間10回「ふるさと探訪」を開催する。	ふるさと探訪を年9回実施した。 期間:4～6月、9～2月(月1回)	参加者数	1,082人	903人	B	屋外での行事のため、悪天候の回は参加人数が少なかったことや、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、開催を1回中止したことなどで、参加者が前年度を下回った。今年度も既に4月から6月の実施を見送っており、感染症拡大防止の適切な対応を徹底しながら、事業を実施する必要がある。	文化財課
95	VI	1	(1)	遺跡発掘現場等公開事業	市	市内の遺跡発掘調査現場の調査成果(遺構・遺物)を、現地で速報的に公開する。(毎年2～5回程度、不定期に開催)	国史跡松平家墓所現地見学会(6/1) 国史跡石清尾山古墳群見学会(6/8) 高松城跡旭橋北側石垣解体修理工事見学会(1/8)	遺跡発掘現場等公開参加者数	史跡追加指定記念古墳見学会(石清尾山古墳群稲荷山地区)70人 勝賀城跡現地説明会100人 以上2回開催 計170人参加	国史跡松平家墓所現地見学会92人 国史跡石清尾山古墳群見学会30人 高松城跡旭橋北側石垣解体修理工事見学会180人	A	遺跡発掘現場を公開した場所が、見学会参加者にとって、参加しやすい環境であったことが、参加者数増加につながった。今後も遺跡発掘現場等の公開を積極的に行っていく。	文化財課
96	VI	1	(1)	出前(出張)埋蔵文化財事業	市	市内の埋蔵文化財(高松城跡・屋嶋城跡・石清尾山古墳群等)について、学校や市内の各種団体等の依頼により、現地等で説明・周知活動を行う。	石清尾山古墳群、高松城跡、屋嶋城跡、勝賀城跡ほか市内の遺跡の調査成果等について説明した。	出前(出張)埋蔵文化財事業参加者数	37団体 計1,467人	51団体 計1,806人	A	高松市が管理している史跡や市内の埋蔵文化財について、市民の関心が高いことが、出前事業の依頼数・参加者数増加に繋がっている。今後も広報媒体を通して、積極的な情報発信を行ってきたい。	文化財課
97	VI	1	(1)	企画展・常設展等展示事業	市	原始・古代から現代までの高松の歴史を常設で展示するとともに、企画展・収蔵品展・ロビー展等を開催し、資料を展示・紹介する。	常設展 収蔵品展「JAPANESE FOLK TOYS」 企画展「心を豊かにするデザイン」 収蔵品展「高松 山ものがたり」 企画展「墨景礼讃」 また、ロビー展及び学習室を利用した展示も開催した。	入場者数	21,362人	24,892人	A	展示内容が好評であり、前年度を上回る来館者数であった。今後も展示内容の充実等に努めるとともに、積極的な広報活動に努めていく。	文化財課 (歴史資料館)
98	VI	1	(1)	古文書講座	市	生活に密着した古文書を題材に、年間7回(8月～3月)、古文書を解説し親しむための講座を開催する。	生活に密着した古文書を題材に、年6回(8月～2月、12月を除く。)講座を開催した。	参加者数	375人	277人	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部講座を中止したこともあり、参加者数が前年度を下回った。今後も講座内容を検討し、積極的な広報活動に努めていく。	文化財課 (歴史資料館)
99	VI	1	(1)	石の民俗資料館友の会コンサート	市、石の民俗資料館友の会	地域文化の向上を目指し、石の民俗資料館友の会が、年5回程度、クラシック音楽等コンサートを開催する。	R元年度4回開催 「ネコレコンサート」(5/26) 「SWJOジャズライブコンサート」(10/20) 「石民落語会」(11/9) 「ウインターコンサート」(12/22)	年間入場者数	910人	458人	C	友の会主催のクラシックコンサートについては、年5回実施していたが、出演者の選定に時間を要するなどの課題があり、令和元年度から中止している。ただし、年数回は、落語会を含むイベントやコンサートを年数回実施する中で、広報活動に努めていく。	文化財課 (石の民俗資料館)
100	VI	1	(1)	文学展事業	実行委員会(補助)	貴重な文学資料を鑑賞し、文学への理解と関心を高める機会として、菊池寛(ほか郷土ゆかりの作家等)の文学展を開催する。	第28回文学展の企画展示として「文学の愉い絵展」、関連行事として記念講演会、特別講演会、NHK高松放送局と連携した作品朗読会とクラシックギター演奏会、寄席、怪談会、ワークショップを開催した。(参加人数 2,518人)	入場者数	3,564人	2,518人	C	菊池寛生誕130年・没後70年の前年に比べると実績数は下回っているが、文学作品と併せて親しみやすい装画や挿絵を紹介することにより文学の魅力を発信できた。広報活動において、SNSを活用し、より多くの市民に興味や親しみを持ってもらえるよう工夫する。	文化財課 (菊池寛記念館)

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
	種別	区分	回数					指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
101	VI	1	(1)	文芸講座	市	郷土で活躍する作家や歌人、大学教授などを講師に、幅広い分野の親しみやすい文学講座を開催する。	6月～3月の期間、毎月第1土曜日に、地域文芸の振興を図るため、郷土で活躍する大学教授などを講師に幅広い分野の親しみやすいテーマで文芸講座の開催を10回予定していたが、3月は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となり、全9回開催した。(11月のみ第3土曜日) (R1参加者合計 733人)	講座参加者数	638人	733人	A	成果は上がっているが、更なる成果を目指し、共催の菊池寛顕彰会と連携を図りながら内容の充実を努めるとともに、より多くの市民が関心を持ち参加したくなるような広報活動等の工夫が必要。	文化財課 (菊池寛記念館)
102	VI	1	(1)	スポーツ教室	公益財団法人高松市スポーツ協会	市民の健康増進と体力向上を図るため、各スポーツ施設の特徴を活かした各種スポーツ教室を開催する。	各種スポーツ教室	実施施設及び実施教室数	17施設 153教室	17施設 147教室	B	多くの教室を開催する中で、取捨選択を行った結果、教室数が減少した。今後、調査・研究を重ね、新しい種目の教室を開催するなどの工夫を行い、より多くの方に満足していただける教室開催に取り組んでいきたい。	スポーツ振興課
103	VI	1	(1)	トリムの祭典	高松市民スポーツ・レクリエーション組織委員会	市民のスポーツ・レクリエーションに触れる機会として、トリムの祭典を実施する。	ステージイベント(ヨーガ、ステップ21、フォークダンス、サルサダンス) ニュースポーツ紹介・体験 キンボールスポーツ体験 健康チェックコーナー 市民ウォーキング サイクルオリエンテーリング 石清尾三山を歩く ちびっこ鬼ヶ島探検&サンドビーチウォークなど	参加者数	約6,000人 (延べ人数)	約6,000人 (延べ人数)	A	ニュースポーツを中心に実施している中央公園イベントでは多くの家族連れが、また、ハイキングやサイクリング等の周辺イベントでは、高齢者を中心に多くの年齢層の方が参加し、スポーツ体験の機会を提供できた。課題としては、例年と同じ実施種目が多く、見直しが必要である。	スポーツ振興課
104	VI	1	(1)	高松スポーツカーニバル	高松市民スポーツ・レクリエーション組織委員会	広く市民にスポーツ活動への参加を促し、健康増進と体力向上、スポーツ施設への利用促進を図る。	小学生水泳教室 ウォーキング サイクリング ドッジボール 各種スポーツ体験など	参加人数	8,590人	8,761人	A	多種多様なイベントを実施しており、令和元年度はオリンピックの寺川綾氏を招待したこともあり、多くの市民の参加があった。課題としては、例年と同じ実施種目が多く、見直しが必要である。	スポーツ振興課
105	VI	1	(1)	市民登山学校	市民登山学校	健康維持、自然保護の啓発、登山知識・技術を習熟するため、講座・実技を開催する。	毎月1回の座学と山岳実技	参加人数	生徒数 93人	生徒数 106名 毎月講座1回 実技1回 特別実技3回	A	生徒募集において、各種広報媒体を活用し、広く市民に周知したことにより、定員を超え、座学・実技ともに前年を大幅に上回る参加率となった。今後は新型コロナウイルス感染症対策を十分に検討し、実施する必要がある。	スポーツ振興課
106	VI	1	(1)	学校体育施設開放事業	市	市内全小学校体育施設(自主管理方式)と中学校は指定校方式で、学校体育施設の開放を行う。	市民の体力づくりや健康増進を始め、余暇の利用にも寄与する、身近で有益なスポーツ施設としての学校体育施設について、学校教育活動に留意する中で開放を行う。	中学校開放数	16校	16校	A	計画通り事業を実施することができ、市民に身近なスポーツ・レクリエーションの場を提供することができた。 毎年施設修繕が必要な箇所を改修しているものの、予算等の問題で対応できない部分もあるため、必要性を十分検討し、計画的な実施をしていきたい。	スポーツ振興課
107	VI	1	(1)	地域密着型トップスポーツチーム交流・連携事業	市	地域密着型トップスポーツチームとの交流・連携を図るため、スポーツ教室やスクールガード等を実施する。	スポーツ教室開催・保育園、小学校、中学校等訪問。	参加人数	34,832人	33,340人	B	前年度より実績値は減少したが、一定の成果は得られたと考える。新型コロナウイルス感染症により、中止になった教室もあるが、こういった状況下においても、可能な事業を検討していく必要がある。	スポーツ振興課

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
	種別	区分	回数					指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
108	VI	1	(1)	公共施設利用総合情報システム事業	市	学校体育施設開放事業、市スポーツ施設の利用者登録・予約管理および利用者への各種情報提供を行う。	市スポーツ施設の利用者登録・予約管理、学校体育施設開放事業及び利用者への各種情報提供を行う。	ネットワーク施設数	51施設	51施設	A	市スポーツ施設の利用者登録・予約管理、学校体育施設開放事業及び利用者への各種情報提供を行い、スポーツ施設利用者の利便性が向上した。 管理者側で画面がフリーズして動かなくなることが稀に発生するため、対応策を検討する必要がある。	スポーツ振興課
109	VI	1	(1)	特別展・常設展等展示事業	市	近代絵画や工芸、サブカルチャーなど幅広いジャンルをバランスよく企画し、特別展・常設展を開催する。	近代絵画や工芸、サブカルチャーなど幅広いジャンルをバランスよく企画し、特別展5展・常設展4展を開催した。	展覧会観覧者数	44,579人	55,585人	A	2月末以降、新型コロナウイルスの影響により観覧者数が減少したが、展覧会全体を通しての入場者数は前年度より増加した。今後、同事業の感染症等への対策を講じる必要がある。	美術館美術課
110	VI	1	(1)	アートで遊ぼう！（鑑賞プログラム）	市	鑑賞教育の充実を図るための鑑賞プログラム「アートで遊ぼう！」を実施し、学芸員とともに美術作品の鑑賞を行う。	同事業は参加者減少により令和元年度より中止した。子ども向けの鑑賞プログラムは展覧会の関連イベント等により随時必要に応じて実施する。	アートで遊ぼう！参加者数	実施回数5回 参加者数13人	-	D	-	美術館美術課
111	VI	1	(1)	美術館催し物事業	市	特別展会期中に館内エントランスホール等で県内若手演奏家によるミニコンサート等を開催する。	特別展会期中に館内エントランスホール等で県内若手演奏家によるミニコンサート等を4回、友の会との共催によるコンサートを2回開催した。	コンサート参加者数	1,067人	693人	C	新型コロナウイルス感染症対策のため、ミニコンサート1回が中止になったこともあり、参加者数が減少した。今後、同事業の感染症等への対策を講じる必要がある。	美術館美術課
112	VI	1	(1)	成人式式典事業	市	新成人を対象に、大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますための式典を開催する。	実施時期：令和2年1月12日 実施場所：サンポートホール高松 対象者数：4,594人 出席者数：2,589人	出席率	56.0%	56.4%	A	出席者数を高めることができた。 新成人が成人式に求めているものを把握し、成人式の在り方を見直すことで、出席率の更なる増加を図る必要がある。	生涯学習課
113	VI	1	(1)	P T A 地域活動促進事業	市	地域ぐるみ、市民ぐるみの子どもの健全育成を促進するために高松市PTA連絡協議会への活動を支援する。	高松市PTA連絡協議会へ運営事業及びメール配信事業の補助金を支出（運営事業：6月・10月、メール配信事業：6月）	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	-	生涯学習課
114	VI	1	(1)	青年活動推進事業	市	青年活動の振興を目指し自主的に活動する市青年連絡協議会への助成と、青年教育振興のため協議会へ参画する。	市青年連絡協議会への運営支援として補助金を交付し、青年活動の振興を図るため、各種会合へ参加した。	会員数	12人	10人	B	今年度は、就職、転勤による転出で退団者が出た一方、新規入団者がおらず、2名減となった。 次年度は、行事のボランティアの参加者などから新規入団者の募集を考えていたが、行事が軒並み中止、延期となっている中、別の勧誘方法を検討しなければならない。	生涯学習課
115	VI	1	(1)	子ども向けホームページ「きっずの森」情報発信事業	市	市内で開催される子ども向け行事や子どもの学習に関する情報を、子ども向けホームページ「きっずの森」にて発信する。	幅広くイベントの抜粋をし、内容豊富な子ども向けイベントの掲載ができた	掲載内容の充実、年間アクセス件数	65,234件	80,189件	A	スクロールする回数を減らし、データをリンクさせ、利用者が見やすいホームページを作成した。 H30年度よりアクセス数が伸びている。 さらに、アクセス数を伸ばすため、小・中学校配布物にQRコードを掲載をお願いする。（広報高松は毎年6月に掲載） 小・中学校の各学校のホームページにリンクを貼って頂く。 簡潔で見やすいページ作りをする。 緊急（災害等）時・休校時、こまめな情報発信をする。	生涯学習課

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
	種別	区分	種目					指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
116	VI	1	(1)	生涯学習カレッジ事業	市	社会変化に対応した生活課題や環境問題など現代的課題をテーマにした講座や、高度で専門的な学習機会を提供する。	社会変化に対応した生活課題や環境問題など現代的課題をテーマにした各種講座を開催した。	生涯学習センター開催講座参加人数	8,429人	7,589人	B	前年度とほぼ同様の参加者数を算ることができた。今後も、社会情勢に応じた市民のニーズに応じた講座の開催を検討する必要がある。	生涯学習センター
117	VI	1	(1)	高松市民大学・屋島カレッジ事業	高松大学生 生涯学習教育 センターと共 催	市民の教養を高め地域文化の振興を図る	市民の教養を高め地域文化の振興を図る「高松市民大学」、歴史・文化・自然・観光など郷土の良さの再確認を図る「屋島カレッジ」など、高松大学と共催で各種講演会を開催する。	講演受講者	553人	511人	B	前年度とほぼ同様の参加者数を算ることができた。今後も、高松大学・高松短期大学と連携し、市民に役立つ各種講演会の開催を検討する必要がある。	生涯学習センター
118	VI	1	(1)	コミュニティセンター同好会事業	市	コミュニティセンター等において承認を得た同好会に対して、定期利用の許可・利用料金の減免を行う。	コミュニティセンター等において承認を得た同好会に対して、定期利用の許可・利用料金の減免を実施した。	同好会登録団体数	1,161団体	1,139団体	B	前年度とほぼ同数の同好会登録団体数であった。今後も、引き続き同好会に対する減免制度を実施し、地域における更なる生涯学習の推進に努める。	生涯学習センター
119	VI	1	(1)	コミュニティセンターだよりの発行 (生涯学習関連)	コミュニティ 協議会	各コミュニティセンターで発行している「コミュニティセンターだより」において、コミュニティセンター等で開催する講座・行事等の学習情報のほか、地域の学校関係情報など多彩な情報を紹介する。	各コミュニティセンターで発行している「コミュニティセンターだより」において、コミュニティセンター等で開催する講座・行事等の学習情報のほか、地域の学校関係情報など多彩な情報を紹介した。	発行施設数	52施設	52施設	A	前年度と同数の施設において「コミュニティセンターだより」で多彩な情報を紹介できた。今後も、引き続き「コミュニティセンターだより」で地域における生涯学習に係る情報の提供に努める。	生涯学習センター
120	VI	1	(1)	まなびCANだより「まなびかんづめ」の発行	市	生涯学習センターで開催される講座等の学習情報を紹介する情報紙「まなびかんづめ」を毎月発行する。	生涯学習センターで開催される講座等の学習情報を紹介する情報紙「まなびかんづめ」を毎月発行した。	「まなびかんづめ」配布箇所数	39ヶ所	39ヶ所	A	前年度と同様、39ヶ所に「まなびかんづめ」を配布できた。今後も、引き続き新たな配布先の開拓を検討する必要がある。	生涯学習センター
121	VI	1	(1)	まなびCANホームページ 情報発信事業	市	まなびCANのホームページで講座の募集情報・施設情報・お知らせ・インターネット塾など各種生涯学習情報を発信する。	まなびCANのホームページで講座の募集情報・施設情報・お知らせ・インターネット塾など各種生涯学習情報を発信した。	HPアクセス件数	56,513件	76,794件	A	前年度を上回るホームページのアクセスがあった。今後も、引き続きホームページで市民にとって興味を持ってもらえる各種生涯学習情報等の発信に努める必要がある。	生涯学習センター
122	VI	1	(1)	コミュニティセンター等パソコン講習会	市	生涯学習センターやコミュニティセンター等でパソコン講習会を開催し、情報通信の知識や技術・マナー等、情報活用能力の向上、新しい情報メディアの活用を推進する。	生涯学習センターやコミュニティセンター等でパソコン講習会を開催し、情報通信の知識や技術・マナー等、情報活用能力の向上、新しい情報メディアの活用を推進する講座を開催した。	IT講座開催回数(講座数)	145回	124回	B	前年度とほぼ同数の講座を開催できた。パソコンの操作については、機種の入れ替わりが頻繁に行われることから、機種の更新に合わせた講座の開催を検討する必要がある。	生涯学習センター
123	VI	1	(1)	まなびCAN、Eメールサービス	市	広報たかまつの発行に併せて、希望者のパソコン・携帯電話にEメールにより、生涯学習センター講座情報等を配信する。	広報たかまつの発行に併せて、希望者のパソコン・携帯電話にEメールにより、生涯学習センター講座情報等を配信した。	まなびCAN、Eメールサービス登録者数	298人	317人	A	前年度を上回る登録者に対して、講座情報等を発信した。今後、更なる登録者を増加させるための方策を検討する必要がある。	生涯学習センター
124	VI	1	(1)	人権教育市民講座	市	コミュニティセンターで、地域住民を対象に、啓発資料や視聴覚教材を活用した人権教育市民講座を開催する。	延べ32コミュニティセンターで開催し、延べ1,476人の参加があった。	参加者数	1,503人	1,476人	B	限られた経費で市民に対し人権問題を考える機会を継続的に提供している。人権教育市民講座が各団体において毎年開催されるよう、引き続きホームページや他の情報媒体を利用して、情報提供を行っていく必要がある。	人権教育課

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
125	VI	1	(1)	スマイルフェスティバルin たかまつ	市、人権尊重都市たかまつ市民会議(共催)	人権意識の普及・高揚を図るため、人権をテーマとした公演やパネル展、幼児・児童生徒・保護者・企業等によるステージ発表などを内容とするイベントを開催する。	令和2年1月18日にサンポートホール高松 大ホールで開催し、800人の参加があった。	参加者数	666人	800人	A	イベント参加者数については目標(800人)を達成しており、効果的に実施されているが、イベント開催時間全体を通して一定の参加者数を維持できるようプログラムの見直しなど内容の改善を図る必要がある。	人権教育課
126	VI	1	(1)	人権教育研修	市	様々な人権問題の解決を図るため、幼稚園・小中学校ごとにPTAを対象とした人権・同和教育に関する講演会等を開催する。	6市こども園、23市立幼稚園、47小学校、23中学校、1高等学校で開催し、延べ24,039人の参加があった。	参加者数	24,283人	24,039人	B	全ての市立こども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校で講演会等を開催している。子どもに対する人権教育をより効果あるものとするため、今後も事業の継続が必要である。	人権教育課
127	VI	1	(1)	幼年・少年消防クラブの育成	幼少、少年消防クラブ連絡協議会(補助)	幼少年期から防災意識を高め、地域の安全・安心の担い手として育成するため、保育所・幼稚園・小中学校に幼年少年消防クラブの結成を推進する。	令和元年度末において、結成クラブ数は幼年消防クラブ54クラブ、少年消防クラブ19クラブとなっている。	消防クラブ結成数	幼年消防クラブ54クラブ 少年消防クラブ19クラブ	幼年消防クラブ54クラブ 少年消防クラブ19クラブ	A	令和元年度において、結成クラブ数に増減はなかった。各行事を充実させ、クラブ数の維持及び増加を目指す。	予防課
128	VI	1	(1)	新しいメディアの活用	市	「メルマガもつと高松」への行事等の登録(市民への情報配信)	-	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	-	関係各課
129	VI	1	(1)	菊池寛及びその作品から学ぶ「寛学」事業	市	郷土の偉大な作家「菊池寛」の作品に親しみ、先人の生き方に学ぶとともに、自己の生き方を考える「寛学」を実施する。	全小・中学校において、読書活動や道徳科、学級活動の時間等、学校の実態に応じて機会を設けて実施した。	市内全小中学校で実施	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	小学校 全47校 中学校 全23校 100%	A	菊池寛の生き方に触れるとともに、その作品を読み親しむ活動を通して、自己の生き方を考え、自らの夢を描き、高い志をもつ機会となった。	学校教育課
	I	2	(8)										
130	VI	1	(1)	知的障がい者青年教室	市	知的障がいのある青年が、集団活動を通して、人とふれあい社会人としての知識・技能を修得するとともに、市民ボランティアが知的障がい者への理解を深める機会として教室を開設する。	年間8回(5,6,7,9,10,11,1,2月)実施 受講生登録者数:43人 ボランティア登録者数:63人	利用者の満足度	受講生:97.2% ボランティア:78.2%	受講生:92.6% ボランティア:84.9%	B	受講生・ボランティアとも昨年並みの満足度があつた。受講生に比べボランティアがやや少ないため、広報などにより、当日参加できるボランティアを増やしていく必要がある。	生涯学習課
	VI	1	(2)										
131	VI	1	(1)	コミュニティセンター講座	市、コミュニティセンター	コミュニティセンター等で、現代的課題をテーマとする講座や、親子ふれあい学習、趣味・実技講座等を開催し、地域住民に学習機会を提供する。	コミュニティセンター等で、現代的課題をテーマとする講座や、親子ふれあい学習、趣味・実技講座等を開催し、地域住民に学習機会を提供した。	参加者数	87,789人	84,207人	B	新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となった講座があつたことなどから参加者数が減少した。今後とも、各地域のニーズに応じた学習機会を提供する方策を検討する必要がある。	生涯学習センター
	VI	2	(1)										
132	VI	1	(1)	高齢者教室	市、コミュニティセンター	コミュニティセンターで、高齢者が社会変化に対応する知識・能力を高め生活するために必要な学習機会を提供する。	コミュニティセンターにおいて、高齢者が社会変化に対応する知識・能力を高め生活するために必要な学習機会を提供した。	参加者数	18,954人	17,723人	B	新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となった講座があつたことなどから参加者数が減少した。令和2年度から同教室をコミュニティセンター講座に統合するため、引き続きコミュニティセンター講座において高齢者が知識・能力を高め生活する講座の学習機会を提供していく必要がある。	生涯学習センター
	VI	2	(1)										

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
133	VI	1	(1)	女性教室	市、コミュニティセンター	コミュニティセンターで、男女共同参画社会を目指し、女性としての資質・能力の向上を図るための学習機会を提供する。	コミュニティセンターにおいて、男女共同参画社会を目指し、女性としての資質・能力の向上を図るための学習機会を提供した。	参加者数	10,583人	10,004人	B	新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となった講座があったことなどから参加者数が減少した。令和2年度から同教室をコミュニティセンター講座に統合するため、引き続きコミュニティセンター講座において男女共同参画社会を目指し、女性としての資質・能力の向上を図るための学習機会を提供していく必要がある。	生涯学習センター
	VI	2	(1)										
134	VI	1	(1)	まなびCAN・CSR教室	市	CSR(企業の社会的責任)という考え方に基づき、生涯学習センターで、地元企業や個人事業者が生涯学習の観点から社会貢献を進める講座等を開催する。	CSR(企業の社会的責任)という考え方に基づき、生涯学習センターで、地元企業や個人事業者が生涯学習の観点から社会貢献を進める講座等を開催した。	企業による社会貢献(CSR)講座の参加者数	1,016人	780人	C	新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となった講座があったことなどから参加者数が減少した。今後も、企業や個人事業者に生涯学習における企業等の社会貢献を進める場として当該センターを広く周知し、多様な講座の開催を検討する必要がある。	生涯学習センター
	VI	2	(1)										
135	VI	1	(1)	他団体との連携事業	市	国・県等の講師派遣制度の活用をはじめ、公的機関・庁内各課、コミュニティセンター等と連携した講座を開催する。	国・県等の講師派遣制度の活用をはじめ、公的機関・庁内各課、コミュニティセンター等と連携した講座を開催した。	連携事業による講座の参加人数	978人	768人	C	新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となった講座があったことなどから参加者数が減少した。今後も、公的機関等との連携を密にし、幅広く各種の講座の開催を検討する必要がある。	生涯学習センター
	VI	2	(1)										
136	VI	1	(2)	多様な主体との連携事業	市	本市の行政課題へ迅速かつ的確に対応するため、地域の人的・知的資源であり、本市と包括協定を締結する大学等と、多分野・多面的に連携事業を推進する。	大学、企業等多様な主体と様々な事業を実施したほか、令和元年度は、新たにコカ・コーポラトラスジャパンと包括連携協定を締結し、更なる連携推進に努めた。	多様な主体との連携実施事業数	140事業	168事業	A	包括連携協定を締結する企業等が増えた結果、連携事業数が前年度を上回った。今後も本市の行政課題へ迅速かつ的確に対応できる連携事業を継続して実施することが求められる。	政策課
137	VI	1	(2)	協働企画提案事業	市民活動団体等	社会的・公益的課題の解決、市民サービス向上のため、市民活動団体等の専門性・先駆性・柔軟性など特性を生かした企画提案を募集する。	新規事業2事業、継続事業2事業を採択実施。 新規①いのち支えあうプロジェクト香川:「動画による在宅ケアの啓発事業」 新規②わがこと:「コミュニティプランの見直しを支援する」 継続①特定非営利活動法人子育てネットひまわり:「多胎育児をもっと楽しく!〜ピアサポートから生まれる多胎育児支援ツール作成事業〜」 継続②SONAE-NET:「訪日外国人、日本人国内旅行者、地域外出者に向けた帰宅困難者誘導訓練と多言語解説書(チラシ)作成 各事業関係課及びアドバイザーとの協議をきめ細かに実施したことにより、事業のブラッシュアップが行われ、より効果的な取組につながった。また協働事業への取組に対する理解も深めることができた。	協働企画提案事業採択数	4事業	4事業	A	協働企画提案事業については、財政保全プロジェクトの取組みである、事務事業見直しで、新規事業は令和元年度に、継続事業は、令和2年度に廃止が決定した。	男女共同参画・協働推進課
138	VI	1	(2)	市民活動センター事業	市	市民活動センターにおいて、市民活動活性化のため、情報収集・提供、学習・研修、交流・コーディネート、調査・連携、災害時対応など各種事業を実施する。	・活動支援講座(会計・労務等) 17回 140人 ・活動紹介講座(みどりを楽しむ教室等) 26回 361人 ・高松市まちづくり学校(地域づくりチャレンジ塾) 6回 170人 ・みんなの学縁祭 1回 117人 ・みんなでみんなの(和い輪いっしょ) 9回 850人	センター来館者数	21,311人	23,043人	A	・各種講座の実施(活動支援、活動紹介等) ・NPO法人認証等事務に関する相談等 ・高松市まちづくり学校 ・情報収集及び発信(機関誌、HP、FB等)	男女共同参画・協働推進課

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
	種別	区分	種目					指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
139	VI	1	(2)	シルバー人材センター事業	(公社)高松市シルバー人材センター(補助)	高松市シルバー人材センターにおいて、働く意欲のある高齢者の就業機会を増大し、社会参加と生きがいづくりを促進する。	【技術群】 受注件数 27件 【技能群】 受注件数 3,408件 【事務群】 受注件数 97件 【管理群】 受注件数 203件 【一般作業】 受注件数 7,395件 【サービス】 受注件数 8,175件	業務受注件数	20,237件	19,305件	B	受注件数は減少傾向となっているが、高齢者の生きがいづくりや健康づくりなどを目的に就業機会を与えることができた。受注件数と同様にシルバー人材センターの会員数がこの数年、減少傾向となっており、受注の維持・拡大の観点からも会員の確保は課題となっている。会員の維持・拡大に向け、新たな施策の展開など加入促進に努める。また広く市民を対象に、シルバー事業への理解と協力を得るため、効果的な普及・啓発活動の検討を行う。	長寿福祉課
140	VI	1	(2)	「ため池守り隊」市民活動支援事業	市民活動団体(補助)	自然環境保全のため、非農家も参加し、ため池の清掃活動等を実施する団体に補助金を交付する。	17か所	実施か所数	17か所	17か所	A	新たな団体からの申請はなく、前年度から引き続き活動をしている団体が活動を行ったが、非農家も参加し、自然環境保全に役立った。引き続き、市ホームページや広報で周知を行い、新規活動組織の増加に努める。	土地改良課
141	VI	1	(2)	観光ボランティアガイド事業	市観光ボランティアガイド協会(補助)	観光客等の利便を図るため、市内の歴史・文化・自然・物産などを紹介するボランティアガイドを育成する。	市内(屋島山上・玉藻公園内・サンポート高松)3か所、ボランティアガイド事業を実施した。また、高松短期大学と連携し、屋島山上で大学生による学生ガイドを実施した。既存ガイドに活気をもたらすとともに、大学生にガイドを行ってもらうことで、屋島に興味を持ってもらうことができた。	観光ボランティアガイド件数	2,666件	2,224件	B	新型コロナウイルス感染症の影響によりガイド件数は減少したが、影響のない月に関しては例年と同様の件数があり、観光ガイドの必要性が感じられる。また、会員の高齢化が問題となっているため、若返りを図ることを目的に学生ガイドを実施したが、お客様アンケートからも、8割以上のお客様が満足・やや満足との回答であり、好評をいただいている。今後は、引き続きガイド募集を積極的にを行い、若年層の入会を促進する必要があると考えられる。	観光交流課
142	VI	1	(2)	まちかど漫遊帖事業	高松まちかど漫遊帖実行委員会(補助)	歴史探訪・食・産業など高松の隠れた観光資源を発掘し、市民主体で企画・運営する。まち歩きガイドを実施し、観光客の誘致を図り、まちの活性化につなげる。	例年どおり春編及び秋編の2種類のまち歩きパンフレットを作成し、各市民ツアープロデューサーによるまち歩きの催行を実施した。新規コースの設置や既存コースのブラッシュアップが奏功し、年間で499名の方々に参加していただくことができた。	まち歩き参加率	春編参加率91% 秋編参加率78%	75%	B	全体の参加率については、新型コロナウイルスの影響による秋編の参加者減少に伴って低下したが、影響の少ない春編については依然として高い参加率を誇っており、市内におけるまち歩きツアーの需要の高さが伺える。今後は積極的にWEBやSNSを活用した広報活動や、動画配信サービスを活用した取り組みなどが必要であると考えられる。	観光交流課
143	VI	1	(2)	資料館ボランティア事業	市	歴史資料館サポーターによる支援活動(企画展・収蔵品展でのミュージアムトーク、資料整理、チラシ等発送準備)、古文書解説ボランティアによる収蔵資料解説・データ化等を行う。	歴史資料館サポーターによる支援活動(企画展等でのミュージアムトーク、資料整理、チラシ等発送準備)、古文書解説ボランティアによる収蔵資料解説・データ化等を行った。	参加人数	延べ262人	延べ179人	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部事業を中止したこともあり、参加者数が前年度を下回った。今後は事業内容を検討し、充実した資料館の運営に努めていく。	文化財課 (歴史資料館)
144	VI	1	(2)	美術館ボランティア事業	市	市民の美術活動の支援と展覧会鑑賞者の利便性を図るため、美術館ボランティアを設置する。	特別展において美術館ボランティアciviによるギャラリートークを実施した。	civiギャラリートーク参加者数	実施回数48回 参加者数1,030人	実施回数30回 参加者数576人	C	ボランティア側から負担軽減のためギャラリートークの実施回数を減らすよう要望があり、今年度から回数を減らした。また、新型コロナウイルス感染症対策の為、5回分が中止になり、実施回数及び参加者数が減少した。今後、同事業の感染症等への対策を講じる必要がある。	美術館美術課

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
145	VI	1	(2)	たかまつこどもサミット	教育委員会・高松県林ライオンズクラブ	高松市内の小学校児童(4校程度)が各校で調査・研究した結果をテーマに基づき発表し、また、各校からの発表について子どもたちや大人が共に考え、話し合うとともに、提言を行う。	開催日:令和元年1月19日(日) 場所:生涯学習センター テーマ:高松のよさ大発見! 発表校・内容 ①円座小「ふるさと円座の伝統と未来 拓け～Create the future～」 ②国分寺北部小「ふるさと大好き国北小」 ③新番丁小「伝えよう 高松の歴史と伝統文化の心」 ④前田小「人とふれあう前田っ子」	参加者数	200人	200人	A	予定どおり実施できた。学校に負担の大きい事業なので、学校の負担を軽減できる開催方法を検討していかなければならない。	生涯学習課
146	VI	1	(2)	学習成果発表の場事業	市	市民や市民グループの学びの成果を発表することで、さらなる学習意欲の向上を図り、生涯学習の輪を広げるための講座を開催する。	市民や市民グループの学びの成果を発表することで、さらなる学習意欲の向上を図り、生涯学習の輪を広げるための講座を開催した。	市民の学習成果発表の場としての講座開催回数(講座数)	28講座	19講座	C	講座の開催回数は、昨年度と比較して発表者の都合や新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため減少した。今後も、当該事業を市民等に広く周知し、新たな発表者を開拓する必要がある。	生涯学習センター
147	VI	1	(2)	よみかかせたいJr派遣事業	市	子どもの自主的な読書活動や社会貢献への意義や重要性を養う機会として、老健施設等での「よみかかせたいJr」、「キッズ読み聞かせ隊」による読み聞かせ活動を実施する。	依頼による外部活動はなかったものの、子ども読書まつりでのおはなし会等図書館のイベントを中心に、計12回の読み聞かせ活動等を行った。	派遣回数	12回	11回	B	図書館のイベントを主に活動しているが、施設等からの申請はなく、外部活動の実施は難しいものになっている。	中央図書館
148	VI	1	(2)	市民活動団体ネットワーク構築事業	市民活動団体等	各種市民活動団体や教育機関等との交流会の開催など、団体同士のネットワーク構築を図る。	①地域づくりチャレンジ塾2019最終報告会「みんなの学縁祭」令和2年1月18日(土)市民交流プラザIKOD E瓦町アートステーション 参加者117人 ②ワールドおむすびカフェ	交流会(意見交換会)参加人数	117人	117人	A	高松市まちづくり学校実行委員会を中心に、市民活動団体、地域コミュニティ協議会関係者等、地域づくりに関わる多様な人たちとの連携・交流の場として、「みんなの学縁祭」を開催する。	男女共同参画・協働推進課
	VI	1	(1)										
149	VI	2	(1)	コミュニティセンター整備事業	市	コミュニティセンターの改築について、①老朽化に伴う改築②長寿命化の観点に基づいた計画的な保全、この2点を柱とした中期整備指針等に基づき施設整備を行う。	【①川岡】改築工事(完了)、旧施設解体工事(R2繰越) 【②太田】改築工事等(着手) 【③屋島】改築実施設計(完了)、仮事務所化工事(R2繰越) 【④十河】改築基本設計(完了)、実施設計(着手) 【⑤男木】改築実施設計(完了) 【⑤川島】改築実施設計(着手) 【⑥トイレ男女別化】実施設計(完了)	コミュニティセンター中期整備指針等に基づく整備箇所	1施設(木太コミ)	1施設(川岡コミ)	A	中期整備指針等に基づき、計画的な整備を行い、地域のまちづくり拠点づくりに努めた。	地域振興課
150	VI	2	(1)	資料館資料の収集・調査・研究	市	歴史資料館ほか3館(讃岐国分寺跡資料館・香南歴史民俗郷土館・石の民俗資料館)の活動に必要な資料を収集し、展示・公開に向けての調査研究、保存管理等を行う。	歴史資料館ほか3館(讃岐国分寺跡資料館・香南歴史民俗郷土館・石の民俗資料館)の活動に必要な資料を収集し、展示・公開に向けての調査研究、保存管理等を行った。	収蔵資料数	55,886点 (4館合計:67,670点)	67,721点 (4館合計)	A	前年度より寄贈点数が減少したが、必要な資料の受入れができた。今後も十分に精査した上で、必要な資料収集を行い、適正な資料館の運営に努めていく。	文化財課 (歴史資料館ほか)
151	VI	2	(1)	資料館資料活用事業	市	歴史資料館等施設での民具等の展示・紹介、出前トーク、学校授業等での教育普及活動(資料活用)を行う。	歴史資料館等施設での民具等の展示・紹介、出前トーク、学校授業等での教育普及活動(資料活用)を行った。	実施回数	5回 (ロビー展2展含む。)	3回 (ロビー展1展含む。)	C	前年度より民具等の展示・紹介の機会が減少したが、充実した資料活用が実施できた。今後も広報活動に努めるとともに、積極的な教育普及活動(資料活用)に努めていく。	文化財課 (歴史資料館)

生涯学習事業推進状況一覧表

No.	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
	種別	分野	項目					指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
152	VI	2	(1)	収蔵品システム運営事業	市	高松市収蔵品情報システムにより、歴史資料館等(讃岐国分寺跡資料館・香南歴史民俗郷土館・石の民俗資料館・菊池寛記念館・埋蔵文化財センター・美術館・塩江美術館・平和記念館)の収蔵品のデータ管理、インターネットでの情報公開を行う。	高松市収蔵品情報システムにより、歴史資料館等(讃岐国分寺跡資料館・香南歴史民俗郷土館・石の民俗資料館・菊池寛記念館・埋蔵文化財センター・美術館・塩江美術館・平和記念館)の収蔵品のデータ管理、インターネットでの情報公開を行った。	登録件数	147,397件	152,007件	A	各館で積極的なデータ化に努め、前年度を上回る登録によって150,000件を超える登録数になった。 今後も積極的なデータ管理に努め、またアクセス数を増やすために多様な媒体で周知するとともに、情報発信を積極的に行い、インターネットでの情報公開に努めていく。	文化財課 (歴史資料館ほか)
153	VI	2	(1)	美術資料の収集	市	美術品の取得方針に基づき、系統的に美術品を購入する。	美術品の取得方針に基づき、系統的に美術品を11点購入した。また、43点の美術品寄贈があった。	美術品収集点数	19点	54点	A	寄贈が43点あったことにより、収集点数が大幅に増えた。今後も引き続き優れた作品収集に努める。	美術館美術課
154	VI	2	(1)	生涯学習推進員養成研修	市	コミュニティセンター職員などの生涯学習推進員を対象に、生涯学習に関する知識・技能の向上を図るための講座を開催する。	コミュニティセンター職員などの生涯学習推進員を対象に、生涯学習に関する知識・技能の向上を図るための各種講座を開催した。	生涯学習推進員数および参加者数	414人	401人	B	前年度とほぼ同様の参加者数を募ることができた。今後も引き続き生涯学習推進員を対象とした各種講座を開催し、更なる知識・技能の向上につなげる必要がある。	生涯学習センター
155	VI	2	(1)	視聴覚ライブラリー	市	視聴覚教材・機材等の利用促進を図るため、教材・機材の貸出・保存を行う。	視聴覚教材・機材等の利用促進を図るため、教材・機材の貸出・保存を行った。	貸出件数	26件	40件	A	前年度を上回る教材・機材の貸出・保存を行うことができた。今後も、視聴覚教材・機材等を貸し出していることを市民に対して周知する方法を検討する必要がある。	生涯学習センター
156	VI	2	(1)	まなびCANインターネット塾	市	生涯学習センターで開催された新規講座や講演等の内容要旨や講座風景などの情報をホームページで公開する。	生涯学習センターで開催された新規講座や講演等の内容要旨や講座風景などの情報をホームページで公開した。	「インターネット塾」掲載講座数	4講座	2講座	C	前年を下回る講座の掲載回数であった。新規講座や講演等について、積極的にホームページで公開することにより、講座の受講者や来館者の増加につなげる必要がある。	生涯学習センター
157	VI	2	(1)	図書館等資料整備事業	市	図書館サービスの向上、機能強化等を図るため、各種資料(図書・雑誌・新聞・AV資料等)・情報の収集・提供を行う。	図書館サービスの向上、機能強化等を図るため、各種資料(図書・雑誌・新聞・AV資料等)・情報の収集・提供を行った。	資料整備費	74,101,780円	72,963,402円	B	予算削減のため、図書購入実績は減少した。厳しい財政状況の中、引き続き、選書会や各館の選書担当者や話し合いながら、復本率を下げるなどの工夫をし、魅力的な書架づくりを目指すとともに、各種資料・情報の収集・提供に努める。	中央図書館
158	VI	2	(1)	移動図書館事業	市	移動図書館車3台で、図書館の利用が困難な校外地域88ステーションを巡回し、図書等の貸出サービスを実施する。	移動図書館車3台で、図書館の利用が困難な校外地域84ステーションと瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の直島2ステーションを含む86ステーションに巡回サービスを実施した。	図書等の貸出数	125,092冊	121,689冊	B	年間計画どおりのサービスを実施し、一定の成果は上がっているが、貸出冊数の増加のためにステーションの見直しが必要である。	中央図書館
159	VI	2	(1)	レファレンスサービス	市	図書館所蔵の資料等を調べ、利用者からの問合せ調査の回答や学習に必要な資料の紹介等を行う。	図書館所蔵の資料等を調べ、利用者からの問合せ調査の回答や学習に必要な資料の紹介等を行った。	図書館に問合せのあったレファレンス件数	12,704件	13,222件	A	令和元年度実績は、前年度を上回るレファレンス対応を行い、成果は上がっている。引き続き、地域や利用者の課題解決のため、必要とされる情報を的確で迅速な質の高いレファレンスサービスの提供に努める。	中央図書館

生涯学習事業推進状況一覧表

	施策体系			事業名	実施主体	事業概要	R元年度 事業内容(実績)	評価指標				成果と今後の課題	課名
								指標名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	評価		
160	VI	2	(1)	図書のインターネット予約サービス	市	図書館利用者カードの所有者を対象に、図書館ホームページからインターネット蔵書予約等を行う。	令和元年度は、図書館情報システム機器の更新のため、約2週間程度、図書館ホームページの利用を休止したが、それ以外では、図書館利用者カードの所有者に対し、安定的にインターネット蔵書予約等サービスの提供を行った。	インターネットでの蔵書図書等の予約件数	266,933件	254,253件	B	令和元年度実績は、図書館情報システム機器更新のため、図書館ホームページを休止したことなどから、インターネットでの図書予約件数は減少する結果となった。引き続き、利用者が快適にインターネットサービスを不中断かつ快適に提供できるようシステム等の維持・整備を図っていく。	中央図書館
161	VI	2	(1)	センター利用促進事業	市	幅広い年齢層の市民が気軽に利用できるようコンサートや映画上映会のほか、関心の高い趣味・教養分野の講座を開催する。	幅広い年齢層の市民が気軽に利用できるようコンサートや映画上映会のほか、関心の高い趣味・教養分野の講座を開催した。	市民の関心の高い講座や映画会の参加者数	1,488人	2,049人	A	前年度を上回る参加者数を募ることができた。今後も、幅広い年齢層の市民が気軽に参加しやすい講座の開催を検討する必要がある。	生涯学習センター
	VI	1	(1)										
162	VI	2	(1)	ホームページ等の人材情報提供	市	市民の学習活動を支援するため、人材や講座・学習資料など豊富で新しい学習情報の収集・提供を図る。	市民の学習活動を支援するため、人材や講座・学習資料などの学習情報の収集・提供をした。	登録者数	738人	738人	A	前年度と同数の登録者数を確保することができた。新たな学習活動を支援する人材発掘のための方策を検討する必要がある。	生涯学習センター
	VI	1	(1)										
163	VI	2	(1)	本のソムリエ派遣事業	市	図書館司書(本のソムリエ)を派遣し、図書館の仕組みや便利な使い方、本の上手な探し方などを周知する。	団体等からの要請に応じ、図書館司書(本のソムリエ)の派遣を8回実施した。	ソムリエの派遣回数	5回	8回	A	同団体からの毎年の申請が多くなってきていることから、新規の団体への事業PRが課題である。	中央図書館
	VI	1	(1)										
164	VI	-	-	生涯学習をしている人の割合(市民意識アンケート調査)	市	-	-	生涯学習をしている人の割合(市民意識アンケート調査)	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	-	生涯学習課
165	VI	-	-	ボランティア活動に参加した人の割合(市民意識アンケート調査)	市	-	-	ボランティア活動に参加した人の割合(市民意識アンケート調査)	(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	-	生涯学習課
166	VI	-	-	図書館図書市民一人あたり貸出冊数(年間)	市	-	-	図書館図書市民一人あたり貸出冊数(年間)	6.76冊	6.66冊	B	-	中央図書館